

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

熊大病医事第 70 号
令和 5 年 10 月 5 日
開設者名 国立大学法人熊本大学
学長 小川 久雄

熊本大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
氏名	国立大学法人熊本大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

熊本大学病院

3 所在の場所

〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号
電話(096)342-2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							有
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	移植外科	3	形成外科	4	リハビリテーション科	5	病理診断科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
50				795	845

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	306	344	521
歯科医師	5	26	24.6
薬剤師	65	1	65.8
保健師			
助産師	31	2	32.5
看護師	783	31	805.8
准看護師			
歯科衛生士	2		2
管理栄養士	11		11

職種	員数
看護補助者	79
理学療法士	18
作業療法士	9
視能訓練士	6
義肢装具士	
臨床工学士	21
栄養士	
歯科技工士	1
診療放射線技師	49

職種	員数	
診療エックス線技師		
臨床検査	臨床検査技師	74
	衛生検査技師	
	その他	
あん摩マッサージ指圧師		
医療社会事業従事者	7	
その他の技術員	17	
事務職員	291	
その他の職員	70	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	81	眼科専門医	9
外科専門医	55	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	13	放射線科専門医	21
小児科専門医	29	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	15	整形外科専門医	30
泌尿器科専門医	14	麻酔科専門医	22
産婦人科専門医	20	救急科専門医	5
		合計	337

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (馬場 秀夫) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

平成29年4月～平成30年3月まで、医療安全管理委員会委員
令和 3年4月～ 医療安全管理委員会委員長(熊本大学病院長)
令和 3年4月～ 医療安全対策に関するカンファレンス議長(熊本大学病院長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	653.32 人	22.42 人	675.74 人
1日当たり平均外来患者数	1369.17 人	84 人	1453.17 人
1日当たり平均調剤数		1606.5	剤
必要医師数		150.1233	人

必要歯科医師数	8	人
必要薬剤師数	23	人
必要(准)看護師数	389	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	883 ㎡	SR	30 床	有	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	246	㎡	病床数	16 床
	[移動式の場合]	台数	21	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	53			㎡
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	591 ㎡	SR	(主な設備)	汎用自動分析装置、電解質測定装置、HbA1c分析装置		
細菌検査室	137 ㎡	SR	(主な設備)	自動塗布装置、薬剤感受性装置、自動染色装置		
病理検査室	518 ㎡	SR	(主な設備)	自動固定包埋装置、自動染色装置、凍結切片作成装置		
病理解剖室	187 ㎡	SR	(主な設備)	病理解剖台、臓器写真撮影装置、オートクレーブ		
研究室	112 ㎡	SR	(主な設備)	クリオスタット、遠心機、オートクレーブ		
講義室	1126 ㎡	SR	室数	5 室	収容定員	828 人
図書室	2524 ㎡	SR	室数	2 室	蔵書数	177000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	93.48	%	逆紹介率	111.29	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		14576		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19055		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1430		人
	D: 初診の患者の数		17122		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
----	----	---------------	------	------	---------------

西平 淳子□	琉球大学病院安全管理 対策室	○	医療安全管理に関する 見識を有する者	無	1
森高 啓喜	森高・吉見法律事務所		法律に関する見識を有 する者	無	1
馬見塚 まゆみ	がんサロンネットワーク		医療を受ける者その他 の医療従事者以外の者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
熊本大学ホームページによる公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	1人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法小腸腺がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	1人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来治療法が終了予定のものに限る。)	13人
生体肝移植術 切除が不可能な肝門部胆管がん	0人
反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類合計数	6
取扱い患者数の合計(人)	15

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	22	56	マルファン症候群	2
2	筋萎縮性側索硬化症	107	57	エーラス・ダンロス症候群	3
3	脊髄性筋萎縮症	12	58	ウィルソン病	8
4	原発性側索硬化症	1	59	ウェルナー症候群	2
5	進行性核上性麻痺	50	60	ブラダー・ウィリ症候群	3
6	パーキンソン病	237	61	22q11.2欠失症候群	1
7	大脳皮質基底核変性症	22	62	単心室症	1
8	ハンチントン病	1	63	ファロー四徴症	2
9	シャルコー・マリー・トウス病	3	64	両大血管右室起始症	2
10	重症筋無力症	218	65	急速進行性糸球体腎炎	7
11	多発性硬化症／視神経脊髄炎	173	66	副甲状腺機能低下症	5
12	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	53	67	偽性副甲状腺機能低下症	1
13	封入体筋炎	20	68	副腎皮質刺激ホルモン不応症	2
14	クロウ・深瀬症候群	5	69	ビタミンD抵抗性くる病／骨軟化症	1
15	多系統萎縮症	58	70	ビタミンD依存性くる病／骨軟化症	2
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	122	71	フェニルケトン尿症	7
17	ライソゾーム病	23	72	プロピオン酸血症	2
18	副腎白質ジストロフィー	3	73	メチルマロン酸血症	2
19	ミトコンドリア病	21	74	尿素サイクル異常症	3
20	もやもや病	107	75	ポルフィリン症	3
21	プリオン病	4	76	肝型糖原病	7
22	HTLV-1関連脊髄症	25	77	脳腱黄色腫症	1
23	特発性基底核石灰化症	1	78	アッシュャー症候群	2
24	全身性アミロイドーシス	313	79	好酸球性副鼻腔炎	29
25	遠位型ミオパチー	4	80	進行性白質脳症	2
26	神経線維腫症	70	81	シトリン欠損症	2
27	天疱瘡	33	82	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	5
28	表皮水疱症	1	83	特発性多中心性キャスルマン病	9
29	膿疱性乾癬(汎発型)	18	84	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	1
30	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	85	原発性免疫不全症候群	4
31	中毒性表皮壊死症	4	86	IgA腎症	102
32	高安動脈炎	30	87	多発性嚢胞腎	60
33	巨細胞性動脈炎	5	88	黄色靭帯骨化症	27
34	結節性多発動脈炎	21	89	後縦靭帯骨化症	79
35	顕微鏡的多発血管炎	49	90	広範脊柱管狭窄症	6
36	多発血管炎性肉芽腫症	20	91	特発性大腿骨頭壊死症	55
37	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	28	92	下垂体性ADH分泌異常症	27
38	悪性関節リウマチ	4	93	下垂体性TSH分泌亢進症	5
39	バージャー病	3	94	下垂体性PRL分泌亢進症	63
40	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	95	クッシング病	11
41	全身性エリテマトーデス	443	96	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
42	皮膚筋炎／多発性筋炎	255	97	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	55
43	全身性強皮症	314	98	下垂体前葉機能低下症	308
44	混合性結合組織病	61	99	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
45	シェーグレン症候群	113	100	先天性副腎皮質酵素欠損症	19
46	成人スチル病	15	101	アジソン病	2
47	再発性多発軟骨炎	4	102	サルコイドーシス	102
48	ベーチェット病	95	103	特発性間質性肺炎	126
49	特発性拡張型心筋症	129	104	肺動脈性肺高血圧症	40
50	肥大型心筋症	82	105	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	32
51	再生不良性貧血	38	106	リンパ管筋腫症	12
52	自己免疫性溶血性貧血	2	107	網膜色素変性症	24
53	発作性夜間ヘモグロビン尿症	12	108	バッド・キアリ症候群	3
54	特発性血小板減少性紫斑病	53	109	特発性門脈圧亢進症	9
55	弾性線維性仮性黄色腫	2	110	原発性硬化性胆管炎	8

	疾患名	患者数
111	自己免疫性肝炎	34
112	クローン病	167
113	潰瘍性大腸炎	291
114	好酸球性消化管疾患	7
115	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
116	腸管神経節細胞僅少症	2
117	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	14
118	ブラウ症候群	2
119	筋ジストロフィー	34
120	脊髄空洞症	3
121	遺伝性ジストニア	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症	4
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	1
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	6
125	前頭側頭葉変性症	12
126	先天性無痛無汗症	1
127	アICALディ症候群	1
128	神経細胞移動異常症	1
129	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	14
130	レノックス・ガストー症候群	4
131	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1
132	PCDH19関連症候群	1
133	結節性硬化症	17
134	色素性乾皮症	1
135	先天性魚鱗癬	2
136	家族性良性慢性天疱瘡	2
137	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	39
138	特発性後天性全身性無汗症	10
139	抗糸球体基底膜腎炎	4
140	一次性ネフローゼ症候群	86
141	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3
142	紫斑病性腎炎	10
143	先天性腎性尿崩症	1
144	オスラー病	15
145	閉塞性細気管支炎	2
146	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	13
147	家族性地中海熱	3
148	慢性再発性多発性骨髄炎	1
149	強直性脊椎炎	9
150	骨形成不全症	1
151	軟骨無形成症	1
152	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病 変)	1
153	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4
154	後天性赤芽球癆	4
155	エプスタイン症候群	5
156	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
157	クロンカイト・カナダ症候群	3
158	胆道閉鎖症	15
159	遺伝性膀胱炎	2
160	IgG4関連疾患	9
161	黄斑ジストロフィー	4
162	血栓性血小板減少性紫斑病	1
163		
164		
165		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	162
合計患者数(人)	5686

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料1. 一般病棟 イ (7対1看護)	・感染対策向上加算1 指導強化加算
・特定機能病院入院基本料3. 精神病棟 ハ (13対1看護)	・患者サポート体制充実加算
・入院栄養管理体制加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・超急性期脳卒中加算	・ハイリスク分娩管理加算
・診療録管理体制加算1	・後発医薬品使用体制加算2
・医師事務作業補助体制加算1(20対1補助体制加算)	・病棟薬剤業務実施加算1
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上)	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上) (夜間100対1急性期看護補助体制加算)	・データ提出加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上) (夜間看護体制加算)	・入退院支援加算2
・看護職員夜間12対1配置加算1	・入退院支援加算3
・看護補助加算2(50対1)(精神病棟)	・入院時支援加算
・療養環境加算	・精神疾患診療体制加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・無菌治療室管理加算1	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料2
・放射線治療病室管理加算1 治療用放射性同位元素による治療の場合	・特定集中治療室管理料3
・放射線治療病室管理加算2 密封小線源による治療の場合	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・緩和ケア診療加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・緩和ケア診療加算 個別栄養食事管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児集中治療室、新生児集中治療室)
・精神科身体合併症管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・小児入院医療管理料2
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料2に係る加算(プレイルーム加算)
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料 無菌治療管理加算1
・医療安全対策加算1	・小児入院医療管理料 養育支援体制加算
・感染対策向上加算1	・看護職員処遇改善評価料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料①)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料 注2の加算	・療養・就労両立支援指導料相談支援加算
・外来栄養食事指導料の注2	・がん治療連携計画策定料
・外来栄養食事指導料の注3	・肝炎インターフェロン治療計画料
・心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・慢性維持透析患者外来医学管理料 腎代替療法実績加算	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・糖尿病合併症管理料	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料イ	・検査・画像情報提供加算
・がん患者指導管理料ロ	・電子的診療情報評価料
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ニ	・医療機器安全管理料2
・外来緩和ケア管理料	・精神科退院時共同指導料2
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・在宅患者訪問看護・指導料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・婦人科特定疾患治療管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・二次性骨折予防継続管理料1	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
・二次性骨折予防継続管理料3	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・一般不妊治療管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・生殖補助医療管理料1	・遺伝学的検査
・下肢創傷処置管理料	・染色体検査 注2 流産検体を用いた絨毛検査
・外来放射線照射診療料	・骨髄微小残存病変量測定
・外来腫瘍化学療法診療料1	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料 連携充実加算	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・ニコチン依存症管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料②)

施設基準の種類	施設基準の種類
・HPV核酸検出	・遠隔画像診断
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ポジトロン断層撮影
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・CT撮影
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・冠動脈CT撮影加算
・国際標準検査管理加算	・MRI撮影
・遺伝カウンセリング加算	・心臓MRI撮影加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・乳房MRI撮影加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・小児鎮静下MRI撮影加算
・時間内歩行試験	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・シャトルウォーキングテスト	・外来化学療法加算1
・胎児心エコー法	・無菌製剤処理料
・ヘッドアップティルト試験	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・人工臓器検査	・心大血管疾患リハビリテーション料の初期加算
・皮下連続式グルコース測定	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料の初期加算
・光トポグラフィー	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・脳波検査判断料1	・運動器リハビリテーション料の初期加算
・神経学的検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・補聴器適合検査	・呼吸器リハビリテーション料の初期加算
・全視野精密網膜電図	・がん患者リハビリテーション料
・ロービジョン検査判断料	・認知症患者リハビリテーション料
・内服・点滴誘発試験	・集団コミュニケーション療法料
・センチネルリンパ節生検(片側)	・経頭蓋磁気刺激療法
・画像診断管理加算1	・通院・在宅精神療法 療養生活継続支援加算
・画像診断管理加算2	・認知療法・認知行動療法1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料③)

施設基準の種類	施設基準の種類
・精神科作業療法	・内視鏡下脳腫瘍生検術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・内視鏡下脳腫瘍摘出術
・医療保護入院等診療料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・レーザー機器加算(医科)	・角結膜悪性腫瘍切除術
・多血小板血漿処置	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法))
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・人工腎臓 慢性維持透析を行った場合1	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・導入期加算2	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・透析液水質確保加算	・網膜再建術
・慢性維持透析濾過加算	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術
・人工膵臓療法	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・血漿交換法 注2 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・人工中耳植込術
・血漿交換法 注3 移植後抗体関連型拒絶反応治療	・人工内耳植込術
・一酸化窒素吸入療法	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・処置の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・センチネルリンパ節加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・皮膚移植術(死体)	・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・組織拡張器による再建手術(一連につき) (乳房(再建手術)の場合に限る。)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術、骨悪性腫瘍手術	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者)
・処理骨再建加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・骨移植術(軟骨移植術を含む。) (同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る)))	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料④)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・経皮的下肢動脈形成術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下肝切除術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下弁形成術	・生体部分肝移植術
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)	・同種死体肝移植術
・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)	・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・不整脈手術 4 左心耳閉鎖術 ロ 経カテーテル的手術によるもの	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡支援機器を用いる場合)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・生体部分小腸移植術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・同種死体小腸移植術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術(心筋リードの場合)	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いる場合又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経静脈電極抜去術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・両室ベising機能付き植込型除細動器移植術及び両室ベising機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ベising機能付き植込型除細動器移植術及び両室ベising機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・同種死体腎移植術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料⑤)

施設基準の種類	施設基準の種類
・生体腎移植術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・高エネルギー放射線治療の1回線量増加加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・強度変調放射線治療(IMRT)の1回線量増加加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・高エネルギー放射線治療
・精巣内精子採取術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	・病理診断管理加算2
・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・医科点数表第2章第10部手術通則第16号に掲げる手術(胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。))	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・体外式膜型人工肺管理料	・歯科外来診療環境体制加算2
・輸血管理料 I	・歯科診療特別対応連携加算
・コーディネート体制充実加算	・医療機器安全管理料(歯科)
・同種クリオプレシピテート作製術	・歯科治療時医療管理料
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・口腔細菌定量検査
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・有床義歯咀嚼機能検査1の口
・麻酔管理料(I)	・有床義歯咀嚼機能検査2の口
・麻酔管理料(II)	・咀嚼能力検査
・周術期薬剤管理加算	・咬合圧検査
・放射線治療専任加算	・精密触覚機能検査

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	臨床現場での多重課題における意思決定要因の解明	松井 邦彦	病院	200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
2	胃癌間質の組織型別分子サブタイプに基づいた抗ストローマ治療戦略の開発	石本 崇胤	病院	3,950,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
3	革新的治療開発を目指した腸内細菌Fusobacteriumと腫瘍免疫の網羅的解析	馬場 祥史	病院	2,100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
4	子宮がん自然発症マウスモデルを用いたがん発生を制御する上皮・間質の相互応答の解明	三上 芳喜	病院	300,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
5	拘縮と廃用性筋力低下の問題を解決に導く次世代型療養支援体系の構築	掃本 誠治	病院	10,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
6	疲労度遷移ネットワークを用いた子どもの抗疲労介入因子の同定	上土井 貴子	病院	2,000,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
7	心腎連関におけるインドキシル硫酸及び産生責任酵素Sult1a1の毒性学的役割究明	齋藤 秀之	病院	4,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
8	microRNA-21の敗血症に対する制御活性を用いた新たな診断・治療法の開発	江嶋 正志	病院	230,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
9	女性医師の就労継続・キャリア形成推進のための実証的提言：フィンランドとの比較研究	後藤 理英子	病院	241,360	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
10	悪性脳腫瘍におけるポリグルタミン化制御による新規治療法の開発	篠島 直樹	病院	532,352	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
11	T1ρ mapping MRI評価と3次元運動解析に基づく早期膝OA診断の確立	中村 英一	病院	1,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
12	内分泌学的因子を包含した新たな子宮内膜癌の分類と新規治療戦略の確立	齋藤 文誉	病院	1,159,255	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
13	腫瘍随伴マクロファージの免疫学的動態の制御による卵巣癌に対する新規治療戦略の開発	本原 剛志	病院	294,766	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
14	遺伝子改変マウスを用いた頭頸部扁平上皮癌動物モデルの作成	伊勢 桃子	病院	802,024	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
15	大規模災害の避難者における健康被害の要因解明と新たな提言	笠岡 俊志	病院	504,885	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
16	インスリン抵抗性及び分泌低下に対するマクロファージ増殖の病態生理学的意義の検討	山田 沙梨恵	病院	811,914	(補)委 独立行政法人日本学術振興会

16 件

小計 18,536,556円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
17	小児CTにおける深層学習画像再構成を用いた低被ばく撮影法の開発	永山 泰教	病院	836,038	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
18	二層検出器CTによる腎機能障害患者の低造影量プロトコル標準化へ向けた包括的研究	田口 奈留美	病院	1,259,835	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
19	閉塞血管のない急性心筋梗塞(MINOCA)の診療実態及び病態の解明	石井 正将	病院	853,772	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
20	成人T細胞白血病リンパ腫における予後予測モデルおよび微小残存病変の評価法の開発	井上 明威	病院	383,363	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
21	舌癌におけるマクロファージマンノースレセプターの発現に関する研究	竹本 梨紗	病院	2,299,283	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
22	医療行為の結果を質向上する多施設共同カイゼン研究デザインの確立に関する研究	近本 亮	病院	142,963	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
23	AIを用いたCTテクスチャ解析による大腸癌肝転移に対する化学療法の治療効果予測	宮本 裕士	病院	413,160	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
24	仮性認知症としてのLate-onset AD/HDに関する臨床的研究	佐々木 博之	病院	625,208	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
25	逐次近似法再構成冠動脈C20K07988Tが臨床転帰に与える影響に関する多施設無作為化比較試験	尾田 済太郎	病院	60,792	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
26	心臓CTを用いた心筋組織性状評価:心アミロイドーシス診断ストラテジーの確立	尾田 済太郎	病院	849,552	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
27	神経型ゴーシェー病における新規の病態解析と治療薬の開発	城戸 淳	病院	1,408,300	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
28	ドミノ肝移植レシピエントの心機能評価を利用した心アミロイドーシス早期診断法の開発	宇宿 弘輝	病院	440,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
29	多発性嚢胞腎に対するセリンプロテアーゼを標的とした新規治療法の開発	柿添 豊	病院	1,000,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
30	ITAMモチーフとStat1による破骨細胞制御	藤本 徹	病院	400,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
31	TGF-β2によるScx/Sox9共陽性細胞を標的とした腱板修復促進治療の開発	徳永 琢也	病院	1,100,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
32	緑内障における、ミトコンドリアを軸とした神経節細胞機能障害の新規生体イメージング	瀧原 祐史	病院	1,064,165	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
33	医学的見地と統計学的見地を融合させた最適な転倒転落アセスメントアルゴリズムの確立	山ノ内 祥訓	病院	821,280	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
34	電子カルテ情報を利用した血液培養実施状況及び菌血症患者予後の網羅的解析	岡本 真一郎	病院	607,770	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
35	セリンプロテアーゼ制御によるマルチターゲット作用を活用した新規AKI治療法の確立	成田 勇樹	病院	2,080,398	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
36	肺癌に対する放射線療法と免疫療法の有効性の関連解析および最適な治療法の開発	坂田 晋也	病院	2,213,327	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
37	膵α細胞におけるHSP72によるグルカゴン分泌調節機構の解明	北野 さやか	病院	801,634	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
38	急性期脳卒中におけるてんかん原生の解明(多施設前向き観察研究)	松原 崇一朗	病院	2,502,219	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
39	4次元コーンビームCTを利用した体内線量分布計算システムの確立	下東 吉信	病院	414,744	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
40	SIRT7の腸管組織における機能解析および炎症性腸疾患との関連の探索	古田 陽輝	病院	1,916,182	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
41	慢性肝疾患におけるFPがもたらす肝発癌の分子機構の解明とその臨床応用	立山 雅邦	病院	2,207,509	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
42	βラクタム系薬の効果最大化が切り開く耐性菌の個別MICを活用した感染症治療新展開	尾田 一貴	病院	1,858,577	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
43	口腔癌におけるミトコンドリア動態が及ぼす抗癌剤耐性機構の解明と新規治療法の創出	川原 健太	病院	1,136,407	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
44	ALDH2遺伝子変異型アレル保有者における心房細動再発についての検討	星山 禎	病院	1,061,703	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
45	革新的治療法開発を目指した膵癌のKRAS遺伝子変異subtypeの網羅的解析	近本 亮	病院	1,787,810	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
46	粒子状物質による急性心筋梗塞や院外心停止の発症および発症メカニズムの解明	小島 淳	病院	986,724	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
47	ALアミロイドーシスにおける線溶系マーカーPAPの重要性とメカニズム解析	上野志貴子	病院	2,088,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
48	肥満型心不全の分子機構の解明とその制御	松下 健一	病院	1,551,511	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
49	肥満型心不全の分子機構の解明とその制御	松下 健一	病院	593,002	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
50	手根管症候群手術症例を対象としたアミロイドーシスの早期発見に関する研究	高潮 征爾	病院	1,005,236	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
51	呼吸器疾患におけるXa因子阻害薬の出血リスク因子の解析	濱田 昌平	病院	1,177,800	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
52	浸透圧応答転写因子NFAT5による腎間質の微小環境と血圧の調節機序の検討	泉 裕一郎	病院	900,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
53 成人T細胞白血病におけるプロウイルス、ゲノム解析に関連する免疫学的研究	野坂 生郷	病院	1,634,033	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
54 骨髄異形成症候群に対する治療標的としてのSALL4の機能的解析	立津 央	病院	1,706,941	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
55 抗糖尿病効果を発揮する熱ストレス応答経路の多臓器間クロストーク解明	近藤 龍也	病院	1,009,630	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
56 胆管発生と胆汁うっ滞性障害肝の病態進展におけるSOX9関連シグナル経路の機能解析	吉井 大貴	病院	1,370,123	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
57 革新的治療法開発を目指した食道胃接合部腺癌の網羅的ゲノム解析	原田 和人	病院	100,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
58 網羅的遺伝子解析に基づいた膵癌に対する新規バイオマーカー及び分子標的治療の開発	中川 茂樹	病院	1,518,974	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
59 麻酔薬による脳虚血患者周術期の血液脳関門の機能変化の解明と治療応用	賀来 泰之	病院	980,534	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
60 HAO1とビタミンDシグナルを介した後縦靭帯骨化症の病態解明と治療法の開発	谷脇 琢也	病院	900,000	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
61 治療抵抗性口腔癌に対するmt-tRNA修飾を標的とした新たな治療戦略の構築	高橋 望	病院	1,194,935	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
62 拡張不全心不全(HFrEF)における新規線維化関連因子の関与の検討	山本 正啓	病院	1,615,568	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
63 全ゲノム関連解析による免疫チェックポイント阻害剤の有害事象予測因子の同定	宮本 英明	病院	2,854,920	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
64 遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスにおける脳アミロイド血管症の病態解析	野村 隼也	病院	1,145,511	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
65 非アルコール性脂肪肝炎に伴うサルコペニアの対策及び予後予測マーカーの開発	瀬戸山 博子	病院	2,206,680	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
66 強皮症関連肺高血圧症における病態細分化と治療反応群の特定についての検討	千川(寺山)アヲ子	病院	1,207,090	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
67 左室リバースリモデリングを目指したHFrEFの新規治療ガイド指標の確立	花谷 信介	病院	890,534	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
68 HIV-1タンパク質とRNAによるウイルス粒子形成メカニズムの解明	中村 朋文	病院	1,798,825	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
69 マクロファージ増殖抑制を介したGPR43による糖尿病心筋症発症抑制の検討	花谷 聡子	病院	910,919	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会
70 革新的免疫治療開発を目指した食道扁平上皮癌の免疫回避機構解明と新規免疫治療の開発	問端 輔	病院	2,373,910	(補) 委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
71	小細胞肺癌の幹細胞維持及び薬剤耐性化におけるNotch signalingの役割	本岡 大和	病院	3,270,972	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
72	血行性がん転移における循環クラスタニッチの全貌解明	石本 崇胤	病院	2,588,537	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
73	p97/VCPを標的とした新規多発性骨髄腫治療薬の開発に関する研究	西村 直	病院	1,338,489	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
74	脂質異常症に対するワクチン療法の開発	深水 大天	病院	1,200,157	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
75	スキルス胃がん間質ダイバーシティの解明と治療標的の創出	石本 崇胤	病院	8,253,817	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
76	子どもの生活習慣改善に導く個別化研究	上土井 貴子	病院	1,300,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
77	小血管の老化から解明するトランスサイレチンアミロイドーシスの病態	三隅 洋平	病院	145,660	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
78	早産児血液炎症マーカーと母体情報の組み合わせによる胎児炎症反応症候群評価法の開発	岩井 正憲	病院	1,100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
79	血管内皮機能に着目した肺動脈性肺高血圧症への新たな治療法確立のための研究	山本 英一郎	病院	1,300,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
80	酪酸菌製剤と免疫チェックポイント阻害剤を併用した新規肺がん治療戦略の開発	富田 雄介	病院	500,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
81	糸球体機能における恒常性維持とその破綻の分子基盤解明	森永 潤	病院	1,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
82	セリンプロテアーゼによる尿濃縮メカニズムの解明	安達 政隆	病院	1,000,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
83	クローン性造血を介した炎症性免疫疾患の機序の解明	平田 真哉	病院	1,000,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
84	HIV感染におけるケモカイン受容体の動態解析とその多量体形成を標的とした薬剤開発	中田 浩智	病院	1,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
85	食道癌手術後の呼吸器合併症減少を目指した革新的リスク評価法の確立	吉田 直矢	病院	1,000,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
86	妊娠糖尿病における血管内皮障害メカニズムの解明 DPP-4阻害薬の治療戦略	杉田 道子	病院	1,900,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
87	患者検体由来膠芽腫オルガノイド培養による膠芽腫個別化治療法の開発	竹崎 達也	病院	750,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
88	加齢による音声障害に対するSirt1を介した新たな治療法の開発	宮丸 悟	病院	2,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
89	疾患マーカーとしての爪中microRNAの検討	伊方 敏勝	病院	1,300,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
90	口腔癌の可塑的エピゲノム機構の解明	中元 雅史	病院	800,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
91	糖尿病性腎症における低血糖誘導ミトコンドリア由来活性酸素種の寄与解析	梶原 伸宏	病院	1,300,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
92	頭頸部癌の緩和的放射線治療における臨床レディオミクス治療効果予測システムの開発	甲斐 祐大	病院	1,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
93	網羅的ゲノム・エピゲノムプロファイリングによる表在型食道癌新規リスク因子の検索	具嶋 亮介	病院	2,600,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
94	エネルギー代謝補酵素に着目した胆道癌・膵癌化学療法抵抗性機序の解明	長岡 克弥	病院	1,600,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
95	新規デバイスをを用いた血液内cfDNA解析による食道癌化学放射線療法の効果予測	山崎 明	病院	1,900,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
96	低分子化合物で誘導したヒト肝前駆細胞を用いた先天性肝代謝疾患モデルの創出	稲田 浩気	病院	800,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
97	急性腎障害に対するセリンプロテアーゼを標的とした新規治療法の開発	中川 輝政	病院	1,300,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
98	皮膚悪性腫瘍におけるcell-free DNAの解析	澤村 創一郎	病院	988,675	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
99	ATL患者における同種移植前後の安全・有効なモガムリズムプ使用に関する研究	井上 明威	病院	1,000,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
100	HBZ-宿主タンパク質結合のATL発がん機序における役割の解明	樋口 悠介	病院	1,200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
101	脂質異常症ワクチンの適応拡大を目指した基盤研究	深水 大天	病院	2,100,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
102	変形性膝関節症における分子シャペロンの機能解析および治療への応用	久永 哲	病院	1,400,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
103	腰椎椎間板変性メカニズムにおけるアミロイドタンパク沈着の影響の解析	中村 孝幸	病院	200,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
104	マクロファージのヘモグロビン処理と卵巣チョコレート嚢胞の炎症・発がんとの関連	楠木 稔	病院	1,300,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
105	ヒト早発卵巣不全の発症に関わる減数分裂制御遺伝子の探索	小寺(原田)千聡	病院	1,300,000	(補)委 独立行政法人日本学術振興会
106	網膜色素上皮細胞における上皮間葉-間葉上皮転換についての研究	福島 亜矢子	病院	656,333	(補)委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
107 利尿薬スピロラクソンの口腔癌治療への応用および新規治療法の開発	坂田 純基	病院	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
108 災害時の洗面所環境・機能確保のための事業継続計画とその実践に関する研究	内藤 久貴	病院	400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
109 医療用ビッグデータを用いた大腸癌予防のための適切な大腸内視鏡検査間隔の検討	本田 宗倫	病院	2,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
110 血管肉腫におけるTGF-βシグナル伝達の解明と新規治療法の探索	坂元 亮子	病院	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
111 生命予後因子CYLDの病態解析を突破口とした難治性卵巣癌の新規薬物療法の開発	三宅 俊介	病院	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
112 メラノーマに対する4-1BBL遺伝子改変iPS細胞を用いた細胞医薬開発	金子 春香	病院	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
113 EGFRの脂質ラフト抑制機構を標的とした新たな頭頸部癌治療戦略の開発	劉 隣	病院	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
114 スモンに関する調査研究	中原 圭一	病院	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
115 プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	野村 恵子	病院	200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
116 新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究	瀬戸山 博子	病院	300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
117 肝炎総合対策の拡充への新たなアプローチに関する研究	瀬戸山 博子	病院	4,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
118 「HTLV-1 総合対策」推進におけるキャリア対策の基盤整備と適正な研究開発の推進に資する包括的評価と提言のための研究	野坂 生郷	病院	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
119 災害時における医療機関の役割分担及び連携の検討に資する研究	笠岡 俊志	病院	1,240,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
120 輸血医療の安全性向上のためのデータ構築研究	米村 雄士	病院	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
121 「E-CFCPによる肝内cccDNA減衰・枯渇効果のメカニズム解析」	青木 宏美	病院	500,000	補委 国立研究開発法人国立国際医療研究センター
122 デュシエンヌ型筋ジストロフィーを対象とした新たな患者レジストリを構築するための研究 (Remudy-DMD)	小篠 史郎	病院	169,231	補委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
123 歩行可能なデュシエンヌ型筋ジストロフィーの自然歴研究	小篠 史郎	病院	11,429	補委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
124 遅延造影CTを用いた心アミロイドーシス診断の検討	尾田 済太郎	病院	1,000,000	補委 出水市病院事業

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
125 再発又は難治性の成人T細胞白血病・リンパ腫に対するニボルマブの第II相医師主導治験	野坂 生郷	病院	615	補 ⑤委 国立大学法人鹿児島大学
126 心房細動を伴う脳梗塞における適切な直接口抗凝固薬開始時期の探求	中島 誠	病院	340,000	補 ⑤委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
127 進展型小細胞肺癌患者に対する初回治療カルボプラチン/エトポシド/アテゾリズマブ併用両方の実地診療における有効	坂田 晋也	病院	67,692	補 ⑤委 公立大学法人和歌山県立医科大学
128 HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	野坂 生郷	病院	1,000,000	補 ⑤委 日本医療研究開発機構
129 ベッカー型筋ジストロフィーの自然歴研究の症例データ集積	小篠 史郎	病院	100,000	補 ⑤委 独立行政法人国立病院機構まつもと医療センター
130 特発性心筋症の診療に直結するエビデンス創出のためのAIを活用した自動病理診断システムの開発	高潮 征爾	病院	400,000	補 ⑤委 公立大学法人奈良県立医科大学
131 医師主導治験の実施(症例登録及びプロトコル遂行)	山口 宗影	病院	427,000	補 ⑤委 国立大学法人千葉大学
132 成人T細胞白血病に対する移植後シクロフォスファミドを用いた非血縁者間末梢血幹細胞移植法の確立と移植後再発への対	野坂 生郷	病院	300,000	補 ⑤委 国立がん研究センター
133 シングルセル・マルチオミクス解析による線維化シグナルネットワークの全貌解明	石本 崇胤	病院	11,945,460	補 ⑤委 科学技術振興機構
134 B型肝炎再活性化に対する、費用対効果に優れた予防および治療法の開発	野坂 生郷	病院	500,000	補 ⑤委 国立国際医療研究センター
135 うつ病のグリア抗うつ薬受容体(LPA1)を基盤とした創薬・バイオマーカー研究	竹林 実	生命科学研究部	1,900,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
136 HTLV-1によるマルチモードウイルス発がん機序の解明	安永 純一郎	生命科学研究部	3,900,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
137 医工連携によるミニチュアヒト肝臓創成とそのex vivo培養がもたらす革新的医療	山下 洋市	生命科学研究部	3,000,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
138 マルチオミクス統合解析を基にしたグリオーマ再発・悪性化機構解明と新規治療戦略創出	武笠 晃丈	生命科学研究部	4,700,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
139 カルシウム・リン代謝制御からの骨恒常性および老化制御	宮本 健史	生命科学研究部	3,900,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
140 ATTRアミロイドーシスを真に克服する病態解明とアミロイド・クリアランス療法	植田 光晴	生命科学研究部	5,700,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
141 ヒトT細胞白血病ウイルス1型がコードするHBZによる発がん機構の解明	松岡 雅雄	生命科学研究部	5,000,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
142 消化器癌の革新的治療法開発を目指したハダカデバネズミ腸内細菌のマルチオミクス解析	馬場 秀夫	生命科学研究部	5,400,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
143 大腸癌病変の発癌過程における責任分子の同定と臨床応用	庄野 孝	生命科学研究部	300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
144 脳血管周囲マクロファージが悪性神経膠腫の増殖・浸潤に関わる病態の解明	植川 顕	生命科学研究部	900,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
145 胃癌腹膜播種における腫瘍不均一性および腫瘍微小環境を標的とした革新的治療法の開発	岩槻 政晃	生命科学研究部	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
146 分子結合技術を用いた新たな造影剤による革新的がんMRI画像化技術の開発	平井 俊範	生命科学研究部	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
147 濾紙血中のSMNタンパク測定による脊髄性筋萎縮症の新生児スクリーニング	中村 公俊	生命科学研究部	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
148 腎内慢性炎症と液性因子を軸とした腎障害進行メカニズム及びその制御に関する研究	向山 政志	生命科学研究部	700,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
149 急性骨髄性白血病におけるT細胞系転写因子ネットワークの解明	岩永 栄作	生命科学研究部	600,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
150 胆汁酸トランスポーターを介した糖代謝・脂質代謝制御機構の解明と治療への応用	石井 規夫	生命科学研究部	1,200,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
151 新規治療薬開発を目指した腫瘍微小環境におけるPD-L1発現の意義と機序解明	塚本 雅代	生命科学研究部	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
152 腫瘍間質細胞によって促進される胃癌腹膜播種進展メカニズムの解明	安田 忠仁	生命科学研究部	1,200,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
153 遺伝子異常によるWNTシグナルネットワークを介した膵発癌機構の解明	杉原 栄孝	生命科学研究部	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
154 膵癌におけるPD-L1/PD-1クロストークが癌細胞に与える影響	今井 克憲	生命科学研究部	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
155 膵癌におけるHippo pathwayと腫瘍微小環境のinteractionの解明	東 孝暁	生命科学研究部	1,200,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
156 癌関連線維芽細胞におけるC5a受容体を標的とした膵癌幹細胞制御	新田 英利	生命科学研究部	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
157 エクソソーム内包microRNA/遺伝子制御による胃癌腹膜播種の原因究明	藏重 淳二	生命科学研究部	1,000,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
158 非小細胞肺癌縮小手術におけるCDCA1-OSNA法の確立	鈴木 実	生命科学研究部	400,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
159 腎細胞癌・尿路上皮癌における腫瘍内および全身性免疫環境の統合的解析	元島 崇信	生命科学研究部	800,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
160 リンパ節抗原提示細胞に着目した新たながん免疫療法の開発	矢津田 旬二	生命科学研究部	1,100,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会

18 件

小計 16,900,000円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
161 環境物質の経卵管的な卵巣暴露による発癌機構の解明から導かれる卵巣癌予防の外科戦略	片渕 秀隆	生命科学研究所	500,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
162 舌癌発生過程におけるTreg排除療法の研究	折田 頼尚	生命科学研究所	100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
163 Sirt7によるIRE1Aセチル化を介したHFpEF病態形成機構の解明	山村 智	生命科学研究所	800,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
164 腎細胞癌におけるMicroRNA-204-5pおよびTRPM3の機能解析	倉橋 竜磨	生命科学研究所	600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
165 テノホビル(TDF)に対する新規耐性HBVの同定と耐性メカニズムの解明	林 佐奈衣	生命科学研究所	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
166 患者アバター技術を使用した再発小細胞肺癌の薬剤耐性化メカニズムの研究	藤野 孝介	生命科学研究所	300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
167 組織工学的手法を用いた甲状腺の再生	西本 康兵	生命科学研究所	200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
168 細胞移植による内耳有毛細胞再生	竹田 大樹	生命科学研究所	500,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
169 認知症原因疾患ごとの認知機能低下の経年変化に関する研究	小山 明日香	生命科学研究所	600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
170 びまん性肝腫瘍に対する症状緩和効果の向上を目指した肝機能温存放射線治療の開発	東家 亮	生命科学研究所	800,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
171 ドラッグ・リポジショニングによるLPA1受容体を標的とした新規抗うつ薬の開発	梶谷 直人	生命科学研究所	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
172 炭素13標識抗体を用いた体内物質の低侵襲MRイメージング法の開発	笹尾 明	生命科学研究所	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
173 人工知能を用いて多層検出器CT画像より疑似的なMR画像を作成する研究	中浦 猛	生命科学研究所	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
174 EOB-MRIとディーブラーニングを用いたHCC切除後の予後予測システムの確立	中川 雅貴	生命科学研究所	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
175 心房細動治療前心臓CTによる心筋組織性状評価:撮像・評価法確立と臨床的意義の解明	木藤 雅文	生命科学研究所	400,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
176 新規エピゲノム解析技術による新しいHBV-cccDNA制御メカニズムの解明	渡邊 丈久	生命科学研究所	900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
177 栄養環境がもたらすエピゲノム制御変化の解明に基づく肝発癌増殖進展の制御	佐々木 裕	生命科学研究所	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
178 空間的遺伝子発現解析が拓くCdh1介在性の炎症性発癌機構の解明と新規予防戦略	直江 秀昭	生命科学研究所	1,900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会

18 件

小計 13,100,000円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
179	腫瘍微小環境の制御を目指したiPS細胞由来マクロファージ療法	福島 聡	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
180	RNAヘリケース変異がR-loopの蓄積を招き造血器腫瘍を発症させる機序の解明	松井 啓隆	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
181	褐色脂肪組織再生に関与する臓器間連関因子の分子機序の解明	阪口 雅司	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
182	褐色脂肪細胞活性調節におけるマクロファージの役割の解明	瀬ノ口 隆文	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
183	西洋型食生活に関連する腸内フローラによる発癌リスクとそのメカニズム解明	有馬 浩太	生命科学研究部	900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
184	ドラッグリポジショニングによる腫瘍微小環境を標的とした革新的治療法の開発	小澄 敬祐	生命科学研究部	900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
185	FusobacteriumによるNOD/NF-κBを介した食道癌進展機序の解明	野元 大地	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
186	周術期心筋傷害の分子機序の解明と制御法の検討	平田 直之	生命科学研究部	2,600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
187	Xp11.2転座腎細胞癌多段階発がん機構の解明	神波 大己	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
188	緑内障術後創傷治療におけるエピゲノム変化とメモリー効果に関する研究	井上 俊洋	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
189	エクソソームによる前転移ニッチ形成を標的とした口腔がん転移の革新的治療法開発	吉田 遼司	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
190	口腔扁平上皮癌の免疫チェックポイント阻害薬耐性機序の解明と新規治療戦略	永田 将士	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
191	YAP/TAZを介した膝癌癌関連線維芽細胞の多様性獲得と癌進展機序の解明	山尾 宣暢	生命科学研究部	1,600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
192	GISTにおける薬剤耐性、悪性度に関する血清バイオマーカーの同定	古閑 悠輝	生命科学研究部	1,700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
193	DNAメチル化異常を標的とした消化器癌の新規バイオマーカーおよび治療法の開発	中村 健一	生命科学研究部	1,700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
194	網羅的遺伝子解析に基づいた肝細胞癌微小脈管侵襲診断マイクロRNAシグニチャー樹立	山村 謙介	生命科学研究部	1,700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
195	集合管オルガノイドを用いた多発性嚢胞腎の治療法開発	倉岡 将平	生命科学研究部	1,700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
196	HTLV-1 Taxの間歇的発現に伴うエピゲノム変容および発がん機構解明	栗田 大輔	生命科学研究部	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会

18 件

小計 22,800,000円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
197	胃がん間質細胞による新しい血行性転移メカニズムの解明	内原 智幸	生命科学研究部	1,600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
198	CCL8によるPD-L2および免疫チェックポイント関連分子発現のメカニズム解析	岡留 一雄	生命科学研究部	1,700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
199	食道癌におけるT cell informed phenotypeの網羅的解析	八木 泰佑	生命科学研究部	1,700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
200	緑内障術後創傷治癒過程におけるMCP-1/CCR2の役割の解明	小島 祥	生命科学研究部	900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
201	口腔扁平上皮癌における放射線耐性機構解明とスルファサラジン併用療法の有効性の検討	中嶋 光	生命科学研究部	1,400,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
202	インスリン受容体β鎖と転写因子FoxK1/2の核内共移行機序と標的遺伝子の解析	荒木 栄一	生命科学研究部	1,600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
203	生体吸収形状記憶膝臓クリップを用いた革新的膝切離法に関する医工連携研究	山下 洋市	生命科学研究部	1,500,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
204	胎児腸管免疫プライミングを標的とした脳および腸の機能障害の発生機序の解明	近藤 英治	生命科学研究部	2,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
205	大腸癌に対する革新的治療戦略構築を目指した患者体組成に関する網羅的解析	徳永 竜馬	生命科学研究部	900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
206	海馬アストロサイトに着目した電気けいれん療法の作用機序解明	朴 秀賢	生命科学研究部	1,500,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
207	統合的MRI解析を用いたCOVID-19神経学的後遺症に関する脳病態解明	上谷 浩之	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
208	急性心筋梗塞におけるLAG-3の関連性の解明	藤末 昂一郎	生命科学研究部	900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
209	トレハロースによる腸-脳-心連関の解明	荒木 智	生命科学研究部	1,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
210	心内微小環境に着目したトランスサイレチン型心アミロイドーシス病態解明	辻田 賢一	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
211	腫瘍関連マクロファージをターゲットとした小細胞肺癌の新規治療戦略	入来 豊久	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
212	自己免疫性肺蛋白症に対する全肺洗浄の作用機序を理解するための基盤研究	坂上 拓郎	生命科学研究部	1,500,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
213	糖尿病性腎症進展抑制を目指したエクソソーム阻害薬投与効果の検討	水本 輝彦	生命科学研究部	1,000,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
214	細胞性免疫による急性腎障害進展機序に果たすMRP8の役割	栞原 孝成	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会

18 件

小計 23,900,000円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
215	膵腺房細胞におけるインスリン作用の意義と新規糖代謝調節機序の解明	福田 一起	生命科学研究部	1,300,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
216	がんストローマ代謝物クロストークによる膵癌進展メカニズムの解明	北村 文優	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
217	肝細胞癌切除新鮮組織からの細胞分離による腫瘍免疫細胞クロストークの解明	遊佐 俊彦	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
218	非小細胞肺癌における腫瘍関連好中球浸潤の分子メカニズムとその臨床的意義の解明	池田 公英	生命科学研究部	1,600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
219	肉腫の転移に関わる免疫微小環境を標的とした新規治療法の開発	白石 大偉輔	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
220	マクロファージのITAMシグナルを介したインプラントへの生体応答制御	岡元 信和	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
221	線維柱帯細胞の圧ストレス応答と房水流出抵抗の関係	藤本 智和	生命科学研究部	1,200,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
222	メカノセレクション仮説から迫る循環腫瘍細胞クラスターの特性解明	神力 悟	生命科学研究部	1,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
223	肝癌におけるC5aRとPD-L1阻害剤との相互作用を介した革新的治療の開発	甲斐田 剛圭	生命科学研究部	1,700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
224	MYCとPGC1 α が制御する癌代謝と腫瘍免疫を標的とした新規肝細胞癌治療法の開発	北野 雄希	生命科学研究部	1,600,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
225	新規免疫治療標的やバイオマーカー同定のための胃癌腹膜播種の動的免疫微小環境の解析	山下 晃平	生命科学研究部	1,900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
226	総合的血栓形成能を用いたDOACs内服患者の血栓症/出血性合併症予測モデルの開発	伊藤 美和	生命科学研究部	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
227	糖尿病性腎臓病における糸球体病変形成機序解明を目指した細胞連関の解析	藤本 大介	生命科学研究部	2,100,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
228	遺伝子変異iPS由来ミエロイドラインと免疫チェックポイント阻害薬併用療法の開発	木村 俊寛	生命科学研究部	700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
229	BHLHE40およびPHD3による膵 β 細胞低酸素応答メカニズムの解明	津山 友徳	生命科学研究部	1,700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
230	大腸癌に対するがん免疫療法における革新的治療予測バイオマーカーの探索	清住 雄希	生命科学研究部	1,700,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
231	糖・アミノ酸代謝シフトによる膵がん代謝制御機構の解明	伊東山 瑠美	生命科学研究部	1,900,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会
232	アセトアミノフェンの鎮痛機序の解明	中村 真吾	生命科学研究部	1,400,000	(補) 委 独立行政法人 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
233	メトレキサート耐性中枢神経原発悪性リンパ腫に対する新規治療標的の探索	藤本 健二	生命科学研究部	700,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
234	上皮性卵巣癌の治療過程におけるマクロファージ制御の有用性に関する検討	坪木 純子	生命科学研究部	1,000,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
235	口腔がんの転移制御実現のための革新的診断法・治療法の開発	山名 啓介	生命科学研究部	2,200,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
236	免疫チェックポイント阻害薬投与時の栄養管理に関する研究	猿渡 功一	生命科学研究部	300,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
237	口腔扁平上皮癌における抗腫瘍ウイルスを用いた新規治療開発に関する研究	郷原 俊輔	生命科学研究部	800,000	(補)委 独立行政法人 日本学術振興会
238	新生児スクリーニング対象疾患等の先天代謝異常症における生涯にわたる診療体制の整備に関する研究	中村 公俊	生命科学研究部	17,600,000	(補)委 厚生労働省
239	医師の労働時間短縮のための手法に関する検討	馬場 秀夫	生命科学研究部	1,185,000	(補)委 厚生労働省

7 件

小計 23,785,000円

239 件

合計 330,783,014円

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記す。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Jodai Y, Hamada S, Yamada M, Masuda Y, Anai M, Jodai T, Tomita Y, Saeki S, Ichiyasu H, Sakagami T.	呼吸器内科	Primary lung sebaceous carcinoma successfully treated with radiotherapy and pembrolizumab: a case report.	Thorac Cancer. 2023 Jan;14(3):331-335.	Case report
2	Furukawa T, Akaike K, Iyama S, Masunaga A, Tomita Y, Saeki S, Ichiyasu H, Sakagami T.	呼吸器内科	Interstitial Lung Disease in Adulthood Associated with Surfactant Protein C Gene Mutation in a Patient with a History of Lipoid Pneumonia in Infancy: A Case Report.	Intern Med. 2023 Jan 15. doi: 10.2169/internalmedicine.0980-22. Online ahead of print.	Case report
3	Imamura K, Tomita Y, Sato R, Ikeda T, Iyama S, Jodai T, Takahashi M, Takaki A, Akaike K, Hamada S, Sakata S, Saruwatari K, Saeki S, Ikeda K, Suzuki M, Sakagami T.	呼吸器内科	Clinical Implications and Molecular Characterization of Drebrin-Positive, Tumor-Infiltrating Exhausted T Cells in Lung Cancer.	Int J Mol Sci. 2022 Nov 8;23(22):13723.	Original Article
4	Akaike K, Saruwatari K, Matsushima R, Fujino K, Morinaga J, Oda S, Takahashi H, Shiraishi S, Okabayashi H, Hamada S, Tomita Y, Masunaga A, Saeki S, Ikeda K, Ichiyasu H, Suzuki M, Sakagami T.	呼吸器内科	Clinical impact of SUVmax of interstitial lesions in lung cancer patients with interstitial lung disease who underwent pulmonary resection.	J Thorac Dis. 2022 Oct;14(10):3801-3810.	Original Article
5	Anai M, Yoshida C, Izumi H, Muramoto K, Saruwatari K, Tomita Y, Ichiyasu H, Sakagami T.	呼吸器内科	Successful treatment with dupilumab for mucus plugs in severe asthma.	Respirol Case Rep. 2022 Dec 15;11(1):e01074.	Case report

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
6	Ikeda T and Tomita Y.	呼吸器内科	Statistical concern regarding the relationship of change in mucus plug score with airflow over time.	Am J Respir Crit Care Med. 2022 Nov 15;206(10):1299	Letter
7	Tomita Y, Goto Y, Sakata S, Imamura K, Minemura A, Oka K, Hayashi A, Jodai T, Akaike K, Anai M, Hamada S, Iyama S, Saruwatari K, Saeki S, Takahashi M, Ikeda T, Sakagami T.	呼吸器内科	Clostridium butyricum therapy restores the decreased efficacy of immune checkpoint blockade in lung cancer patients receiving proton pump inhibitors.	OncImmunity. 2022 May 27;11(1):2081010.	Original Article
8	Anai M, Saruwatari K, Ikeda T, Oda S, Tajima Y, Jodai T, Sakata S, Iyama S, Tomita Y, Saeki S, Ichiyasu H, Sakagami T.	呼吸器内科	Clinical impact of cerebral infarction in patients with non-small cell lung cancer.	Int J Clin Oncol. 2022 May;27(5):863-870.	Original Article
9	Matsuno K ,Sonoda T, Tanaka Y	消化器内科	Ischemic change in gastric mucosa due to gastric wall expansion with air supply: Real-time capture in upper gastrointestinal endoscopy	Digestive Endoscopy 2022 Jul, 34, 5, e113-e114	Original Article
10	Shimakawa Y, Ndow G, Cerceau T, Ceesay A, Kaneko A, Hasegawa A, Yamamoto N, Aoyagi K, Vincent J-P, Watanabe T, Baba M, Sanneh B, Baldeh I, Njie R, D'Alessandro U, Mendy M, Chemin I, Thursz M-R, Lemoine M and Tanaka Y	消化器内科	Rapid point-of-care test for hepatitis B core-related antigen to diagnose high viral load in resource-limited settings	Clin Gastroenterol Hepatol 2022 Jun, S1542-3565(22)00554-7	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
11	Watanabe T, Hayashi S, Tanaka Y	消化器内科	Drug Discovery Study Aimed at a Functional Cure for HBV	Viruses□ 2022 Jun, 14, 7, 1393	Review
12	Matsuno K, Miyamoto H, Kitada H, Yoshimatsu S, Tamura F, Sakurai K, Fukubayashi K, Shono T, Setoyama H, Matsuyama T, Suko S, Narita R, Honda M, Tateyama M, Naoe H, Morinaga J, Tanaka Y, Gushima R	消化器内科	Comparison of endoscopic submucosal resection with ligation and endoscopic submucosal dissection for small rectal neuroendocrine tumors: A multicenter retrospective study	DEN Open□ 2022 Sep, 3, 1, e163□	Original Article
13	Tokunaga T, Tateyama M, Kondo Y, Miura S, Miyase S, Tanaka K, Narahara S, Inada H, Kurano S, Yoshimaru Y, Nagaoka K, Watanabe T, Setoyama H, Fukubayashi K, Tanaka M, Tanaka Y	消化器内科	Therapeutic Modifications without Discontinuation of Atezolizumab Plus Bevacizumab Therapy Are Associated with Favorable Overall Survival and Time to Progression in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma	Cancers (Basel) 2023 Mar, 15, 5, 1568□	Original Article
14	Kondo Y, Morosawa T, Minami S, Tanaka Y	消化器内科	DEB-TACE combined with hepatic artery infusion chemotherapy might be an affordable treatment option for advanced stage of HCC.	Sci Rep 2022 Oct, 12, 1, 16868	Original Article
15	Gushima R, Miyamoto H, Imamura M, Sonoda T, Matsuno K, Yamasaki A, Furuta Y, Hashigo S, Tateyama M, Naoe H, Tanaka Y	光学医療診療部(消化器 内科)	Mixed Neuroendocrine Non-Neuroendocrine Neoplasm Arising in the Ectopic Gastric Mucosa of Esophagus	Case Rep Gastroenterol 2022 Dec, 16, 3, 637- 645	Case report

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
16	Shichijo T, Nosaka K, Tatetsu H, Higuchi Y, Endo S, Inoue Y, Toyoda K, Kikukawa Y, Kawakita T, Yasunaga JI, Matsuoka M.	血液・膠原病・感染症内 科 がんセンター	Beneficial impact of first-line mogamulizumab- containing chemotherapy in adult T-cell leukaemia-lymphoma.	Br J Haematol 2022 Sep;198(6):983- 987	Original Article
17	Kawano Y, Hata H, Takashio S, Tsujita K, Ueda M, Matsuoka M.	血液・膠原病・感染症内 科	Daratumumab, lenalidomide and dexamethasone in newly diagnosed systemic light chain amyloidosis patients associated with multiple myeloma.	Br J Haematol 2022 Aug;198(3):e38- e41	Letter
18	Kawano Y, Matsuoka M.	血液・膠原病・感染症内 科	Difference in Clinical Assessments of Multiple Myeloma by Immunofixation Electrophoresis Systems.	International Journal of Myeloma 2023 Feb;13(1): 1-5	Original Article
19	Uchiba M, Matsuoka M.	血液・膠原病・感染症内 科	Using weighted harmonic mean for prediction of APTT in the mixing test.	Thrombosis Update 2022 Aug;8, 100114	Original Article
20	Deng Q, Kakizoe Y, Iwata Y, Nakagawa T, Miyasato Y, Nakagawa M, Nishiguchi K, Nagayoshi Y, Adachi M, Narita Y, Izumi Y, Kuwabara T, Tsuda Y, Mukoyama M.	腎臓内科	The serine protease plasmin plays detrimental roles in epithelial sodium channel activation and podocyte injury in Dahl salt-sensitive rats.	Hypertens Res. 2023 Jan; 46: 50-62.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
21	Miyasato Y, Hanna RM, Morinaga J, Mukoyama M, Kalantar-Zadeh K.	腎臓内科	Prognostic Nutritional Index as a Predictor of Mortality in 101,616 Patients Undergoing Hemodialysis.	Nutrients . 2023 Jan; 15: 311. (オン ライン)	Original Article
22	Kakizoe Y, Nakagawa T, Iwata Y, Deng Q, Adachi M, Miyasato Y, Nakagawa M, Nagayoshi Y, Nishiguchi K, Narita Y, Izumi Y, Kuwabara T, Tomita K, Kitamura K, Mukoyama M.	腎臓内科	Camostat mesilate, a serine protease inhibitor, exerts aquaretic effects and decreases urinary exosomal AQP2 levels.	J Pharmacol Sci. 2022 Dec;150: 204-210.	Original Article
23	Nagayoshi Y, Nishiguchi K, Yamamura R, Chujo T, Oshiumi H, Nagata H, Kaneko H, Yamamoto K, Nakata H, Sakakida K, Kunisawa A, Adachi M, Kakizoe Y, Mizobe T, Kuratsu JI, Shimada S, Nakamori Y, Matsuoka M, Mukoyama M, Wei FY, Tomizawa K.	腎臓内科	t6A and ms2t6A Modified Nucleosides in Serum and Urine as Strong Candidate Biomarkers of COVID- 19 Infection and Severity.	Biomolecules . 2022 Sep; 12: 1233. (オンライン)	Original Article
24	Mukoyama M, Kuwabara T	腎臓内科	Role of renin- angiotensin system blockade in advanced CKD: to use or not to use?	Hypertens Res. 2022 Jun ;45: 1072- 1075.	Others
25	Hata Y, Date R, Fujimoto D, Ikeda HO, Umemoto S, Kanki T, Nishiguchi Y, Mizumoto T, Hayata M, Kakizoe Y, Izumi Y, Kakizuka A, Mukoyama M, Kuwabara T.	腎臓内科	A novel VCP modulator KUS121 exerts renoprotective effects in ischemia-reperfusion injury with retaining ATP and restoring ERAD-processing capacity.	Am J Physiol Renal Physiol. 2022 May; 322: F577-F586.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
26	Sakaguchi M, Okagawa S, Okubo Y, Otsuka Y, Fukuda K, Igata M, Kondo T, Sato Y, Yoshizawa T, Fukuda T, Yamagata K, Cai W, Tseng YH, Sakaguchi N, Kahn CR, Araki E.	代謝内科学	Phosphatase Protector Alpha4 ($\alpha 4$) is involved in Adipocyte Maintenance and Mitochondrial Homeostasis through Regulation of Insulin Signaling.	Nature Communications 13(1):7439, 2022.Oct	Original Article
27	Araki E, Harashima S, Nishida T, Nakamura J	代謝内科学	Efficacy and safety of once-weekly semaglutide in Japanese individuals with type 2 diabetes in the SUSTAIN 1, 2, 5 and 9 trials: Post-hoc analysis.	Journal of Diabetes Investigation 13(12):1971-1980, 2022.Dec	Original Article
28	Araki E, Sakaguchi M, Fukuda K, Kondo T	代謝内科学	Potential of a glucagon-like peptide-1 receptor/glucose-dependent insulinotropic polypeptide receptor/glucagon receptor triagonist for the treatment of obesity and type 2 diabetes.	Journal of Diabetes Investigation 13(12):1958-1960, 2022.Dec	Review
29	Saishouji F, Maeda S, Hamada H, Kimura N, Tamanoi A, Nishida S, Sakaguchi M, Igata M, Yokoo K, Kawakami F, Araki E, Kondo T.	代謝内科学	Ectopic ACTH-producing neuroendocrine tumor occurring with large recurrent metastatic pheochromocytoma: a case report.	BMC Endocrine Disorders 22(1):184, 2022.Jul	Case report
30	Matsumura T, Makabe T, Ueda S, Fujimoto Y, Sadahiro K, Tsuruyama S, Ookubo Y, Kondo T, Araki E.	代謝内科学	Clinical Benefit of Switching from Low-Dose to High-Dose Empagliflozin in Patients with Type 2 Diabetes.	Diabetes Therapy 13(9):1621-1634, 2022.Sep	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
31	Araki H, Matsumura T, Furukawa N, Araki E	代謝内科学	Updates of incretin- related drugs for the treatment of type 2 diabetes	Journal of Diabetes Investigation. 14(2):189- 192. 2023.Feb	Review
32	Kuyama N, Takashio S, Nagakura T, Imamura M, Takamatsu K, Takae M, Hirakawa K, Yamanaga K, Hanatani S, Yamamoto E, Matsushita K, Ueda M, Tsujita K.	循環器内科	Anti-Kv1.4 Antibody Without Myasthenia Gravis: A Rare Cause of Autoimmune Myocarditis and Myositis.	JACC Case Rep. 2023 Jan 27;9:101734.	Case report
33	Sumi H, Hoshiyama T, Moriyama K, Noda K, Kaneko S, Kanazawa H, Ishii M, Fujisue K, Sueta D, Takashio S, Usuku H, Matsushita K, Tsujita K.	循環器内科	Effect of contact vector direction on achieving cavotricuspid isthmus block.	Sci Rep. 2023 Feb 13;13(1):2579.	Original Article
34	Ishii M, Kawai T, Tsujita K, Igarashi A, Suzuki M, Deguchi H, Fernandez J.	循環器内科	Cost-Effectiveness of Vonoprazan Compared With Proton Pump Inhibitors in Patients Taking Low-Dose Aspirin for Secondary Prevention of Cardiovascular Events in Japan.	Circ J. 2023 Jan 25;87(2):348-359.	Original Article
35	Usuku H, Yamamoto E, Sueta D, Noguchi M, Fujisaki T, Egashira K, Morioka M, Komorita T, Oike F, Fujisue K, Hanatani S, Arima Y, Takashio S, Oda S, Kawano H, Matsushita K, Ueda M, Matsui H, Tsujita K.	中央検査部	Time-dependent change of relative apical longitudinal strain index in patients with wild- type transthyretin amyloid cardiomyopathy.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2022 Nov 5;43:101146.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
36	Fujisaki T, Yamanaga K, Yamamoto E, Tsujita K.	循環器内科	Cancer Development Associated with Cardiovascular Diseases.	JMA J. 2022 Oct 17;5(4):510-511.	Others
37	Hoshiyama T, Sumi H, Kaneko S, Kawahara Y, Ito M, Kanazawa H, Takashio S, Yamamoto E, Matsushita K, Tsujita K.	循環器内科	Placement of catheters without magnetic sensors in the coronary sinus without fluoroscopic guidance: Feasibility and safety evaluation.	J Arrhythm. 2022 Aug 5;38(5):736-742.	Original Article
38	Tokai T, Takashio S, Kawano Y, Kidoh M, Oda S, Matsuoka M, Tsujita K.	循環器内科	Assessing the treatment effect of daratumumab by serial measurements of cardiac biomarkers and imaging parameters in light-chain cardiac amyloidosis.	J Cardiol Cases. 2022 Jul 16;26(4):301-304.	Case report
39	Shirahama Y, Iabata N, Sakamoto K, Sato R, Yamanaga K, Fujisue K, Sueta D, Araki S, Takashio S, Arima Y, Hokimoto S, Sato K, Sakamoto T, Nakao K, Shimomura H, Matsumura T, Tayama S, Fujimoto K, Oshima S, Nakamura S, Tsunoda R, Hirose T, Kikuta K, Sakaino N, Yamamoto N, Kaijwara J, Ishii M, Kuramitsu S,	循環器内科	Validation of the obesity paradox by body mass index and waist circumference in patients undergoing percutaneous coronary intervention.	Int J Obes (Lond). 2022 Oct;46(10):1840-1848.	Original Article
40	Yamanaga K, Matsuo H, Horie K, Takashima H, Terai H, Kikuta Y, Ishihara T, Saigusa T, Sakamoto T, Suematsu N, Shiono Y, Asano T, Masamura K, Doijiri T, Toyota F, Ogita M, Kurita T, Matsuo A, Harada K, Yaginuma K, Kanemura N, Sonoda S, Yokoi H, Tanaka N, Tsujita	循環器内科	Association of guideline- directed medical therapy adherence with outcomes after fractional flow reserve-based deferral of revascularization.	Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother. 2022 Sep 3;8(6):600-608.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
41	Fujisue K, Yamamoto E, Sueta D, Arima Y, Hirakawa K, Tabata N, Ishii M, Ito M, Yamanaga K, Hanatani S, Hoshiyama T, Kanazawa H, Takashio S, Araki S, Usuku H, Nakamura T, Soejima H, Kaikita K, Kawano H, Matsushita K, Tsujita K.	循環器内科	A Randomized, Double-Blind Comparison Study of Royal Jelly to Augment Vascular Endothelial Function in Healthy Volunteers.	J Atheroscler Thromb. 2022 Sep 1;29(9):1285-1294.	Original Article
42	Kuyama N, Kaikita K, Ishii M, Mitsuse T, Nakanishi N, Fujisue K, Otsuka Y, Hanatani S, Sueta D, Takashio S, Araki S, Yamamoto E, Matsushita K, Tsujita K.	循環器内科	Increased thrombogenicity is associated with revascularization outcomes in patients with chronic limb-threatening ischemia.	J Vasc Surg. 2022 Aug;76(2):513-522.	Original Article
43	Sueta D, Tsujita K.	循環器内科	Is echocardiography invincible for the diagnosis of cancer therapy-related cardiac dysfunction?: Another emerging imaging option.	Int J Cardiol. 2022 Jul 15;359:120-121.	Others
44	Yamamoto E, Sueta D, Tsujita K.	循環器内科	Renal denervation in resistant hypertension: a review of clinical trials and future perspectives.	Cardiovasc Interv Ther. 2022 Jul;37(3):450-457.	Review
45	Usuku H, Takashio S, Yamamoto E, Yamada T, Egashira K, Morioka M, Nishi M, Komorita T, Oike F, Tabata N, Ishii M, Yamanaga K, Fujisue K, Sueta D, Arima Y, Araki S, Oda S, Misumi Y, Kawano H, Matsushita K, Ueda M, Matsui H, Tsujita K.	中央検査部	Prognostic value of right ventricular global longitudinal strain in transthyretin amyloid cardiomyopathy.	J Cardiol. 2022 Jul;80(1):56-63.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
46	Takashio S, Tokitsu T, Matsukawa M, Sakaino N, Fujimoto K, Sakamoto T, Noda K, Tsunoda R, Misumi I, Hirai N, Doi H, Koide S, Mizuno Y, Hirose T, Kurokawa H, Kajiwara I, Ohba K, Miyamoto S, Araki S, Yamamoto E, Matsushita K, Ueda M, Tsujita K; Kumamoto Cardiac Amyloid Survey Investigators	循環器内科	Incidence, clinical characteristics, and diagnostic approach in transthyretin amyloid cardiomyopathy: The Kumamoto Cardiac Amyloidosis Survey.	J Cardiol. 2022 Jul;80(1):49-55.	Original Article
47	Morioka M, Takashio S, Nakashima N, Nishi M, Fujiyama A, Hirakawa K, Hanatani S, Usuku H, Yamamoto E, Kidoh M, Oda S, Matsushita K, Ueda M, Tsujita K.	循環器内科	Correlation Between Cardiac Images, Biomarkers, and Amyloid Load in Wild-Type Transthyretin Amyloid Cardiomyopathy.	J Am Heart Assoc. 2022 Jun 21;11(12):e024717.	Original Article
48	Oike F, Usuku H, Yamamoto E, Marume K, Takashio S, Ishii M, Tabata N, Fujisue K, Yamanaga K, Sueta D, Hanatani S, Arima Y, Araki S, Oda S, Kawano H, Soejima H, Matsushita K, Ueda M, Fukui T, Tsujita K.	循環器内科	Utility of left atrial and ventricular strain for diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy in aortic stenosis.	ESC Heart Fail. 2022 Jun;9(3):1976-1986.	Original Article
49	Egashira K, Sueta D, Kidoh M, Tomiguchi M, Oda S, Usuku H, Hidaka K, Goto-Yamaguchi L, Sueta A, Komorita T, Oike F, Fujisue K, Yamamoto E, Hanatani S, Takashio S, Araki S, Matsushita K, Yamamoto Y, Hirai T, Tsujita K.	循環器内科	Cardiac computed tomography-derived myocardial tissue characterization after anthracycline treatment.	ESC Heart Fail. 2022 Jun;9(3):1792-1800.	Original Article
50	Nakashima N, Takashio S, Morioka M, Nishi M, Yamada T, Hirakawa K, Ishii M, Tabata N, Yamanaga K, Fujisue K, Sueta D, Kanazawa H, Hoshiyama T, Hanatani S, Araki S, Usuku H, Yamamoto E, Ueda M, Matsushita K, Tsujita K.	循環器内科	A simple staging system using biomarkers for wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in Japan.	ESC Heart Fail. 2022 Jun;9(3):1731-1739.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
51	Sueta D, Matsushita K, Tsuji K.	循環器内科	Venous thrombosis in evacuees during war: Will the experience of our ancestors be put to good use?	Res Pract Thromb Haemost. '2022 May 20;6(4):e12720.	Others
52	Tabata N, Tsuji K.	循環器内科	Disparities in transcatheter mitral valve repair – Disparities being corrected little by little?	Int J Cardiol. 2022 Apr 1;352:52–53	Others
53	Nakajima M, Watari M, Ando Y, Ueda M.	脳神経内科	Asymptomatic deep venous thrombosis identified on routine screening in patients with hospitalized neurological diseases	Journal of Clinical Neuroscience, 2022年8 月, 102巻, 13–20ページ	Original Article
54	Misumi Y, Tabata Y, Tasaki M, Obayashi K, Yamakawa S, Nomura T, Ueda M	脳神経内科	Binding of serum- derived amyloid- associated proteins to amyloid fibrils.	Amyloid. 2023 Mar;30(1):67–73.	Original Article
55	Misumi Y, Ando Y, Ueda M	脳神経内科	Early transverse tubule involvement in cardiomyocytes in hereditary transthyretin amyloidosis: a possible cause of cardiac events.	Cardiovasc Pathol. 2022 Nov–Dec;61:107458.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
56	Nakahara K, Nakane S, Terasaki T, Ando Y.	脳神経内科	Effect of phosphatidic acid on antiganglioside antibody reactivity in the isolated facial diplegia variant of Guillain-Barré syndrome: a case report.	Acta Neurol Belg. 2023 Feb;123(1):231-232.	Case report
57	Inoue Y, Nakajima M, Inatomi Y, Masuda T, Misumi Y, Nomura T, Uetani H, Hirai T, Ueda M.	脳神経内科	Reversible periventricular hyperintensity lesions in cerebral amyloid angiopathy (CAA): A case mimicking CAA-related inflammation.	Intern Med, 61:3581-3584, 2022, Dec.	Case report
58	Ueda A, Nakajima M, Misumi Y, Nakahara K, Shinriki S, Tasaki M, Matsui H, Ueda M.	脳神経内科	Detection of Vascular Notch3 deposits in Unfixed Frozen Skin Biopsy Sample in CADASIL.	Front Neurol, 3:881528, 2022, Jun	Original Article
59	Inoue Y, Tasaki M, Masuda T, Misumi Y, Nomura T, Yukio Ando Y, Ueda M.	脳神経内科	α -Enolase reduces cerebrovascular A β deposits by protecting A β amyloid formation.	Cell Mol Life Sci, 79: 462, 2022.Aug.	Original Article
60	Mizutani H, Sato Y *, Yamazaki M, Yoshizawa T, Ando Y, Ueda M, Yamagata K.*	脳神経内科	SIRT7 deficiency protects against A β 42-induced apoptosis through the regulation of NOX4-derived reactive oxygen species production in SH-SY5Y cells.	Int J Mol Sci, 23: 9027, 2022 Aug.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
61	Nakahara K, Takamatsu K, Kudo N, Ito T, Ueda M.	脳神経内科	Histopathological features of Gerhardt syndrome in a patient with multiple system atrophy: An autopsy case report.	Cureus 2022 Oct 18;14(10):e30415.	Case report
62	Takeuchi Y, Nomura T, Nakahara K, Ueda M.	脳神経内科	Autoimmune polyglandular syndrome with refractory gait disturbance.	Intern Med . 2022 Nov 30. doi: 10.2169	Case report
63	Nakahara K, Nakajima M.	脳神経内科	Asymmetric skin temperature in Wallenberg syndrome.	Neurol India. 2022 Sep- Oct;70(5):2326-2327	Letter
64	Ueda M	脳神経内科	Transthyretin: its function and amyloid formation.	Neurochem Int. 2022 May;155:105313	Review
65	Nakahara K, Nakane S, Ishii K, Ikeda T, Ando Y.	脳神経内科	Gut microbiota of Parkinson's disease in an appendectomy cohort: a preliminary study	Sci Rep. 2023 Feb 7;13(1):2210	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
66	Nishigawa K, Onga Y, Uemura K, Shimokawa T, Fukui T	心臓血管外科	Surgical aortic valve replacement provides better left ventricular mass regression than transcatheter aortic valve replacement in patients with small aortic annulus.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2023 Mar;71:167- 174	Original Article
67	Koga-Ikuta A, Fukushima S, Ishibashi-Ueda H, Tadokoro N, Kakuta T, Watanabe T, Fukushima M, Suzuki K, Fukui T, Fujita T	心臓血管外科	Immunocompetent cells in durable ventricular assist device-implanted non-ischaemic dilated cardiomyopathy	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2022 Aug;70:685- 693	Original Article
68	Horino T, Miyata T, Inoue M, Ono K, Ono A, Tagayasu Y, Nomoto D, Mizumoto T, Kubota T, Miyanari N, Baba H	消化器外科	Shanghai fever, a fatal enteric illness, in an adult patient with neutropenia caused by treatment-related myelodysplastic syndrome: a case report.	Surg Case Rep. 2022 Apr 18;8(1):69.	Case report
69	Adachi Y, Tokunaga R, Matsumoto K, Nakao Y, Itoyama R, Kuramoto K, Karashima R, Nitta H, Tomiyasu S, Baba H, Takamori H	消化器外科	What are the factors predictive of postoperative complications in patients with colorectal cancer undergoing stenting as a bridge to surgery?	J Surg Oncol. 2022 May;125(6):982-990.	Original Article
70	Yoshida N, Sasaki K, Kanetaka K, Kimura Y, Shibata T, Ikenoue M, Nakashima Y, Sadanaga N, Eto K, Tsuruda Y, Kobayashi S, Nakanoko T, Suzuki K, Takeno S, Yamamoto M, Morita M, Toh Y, Baba H	消化器外科	High pretreatment mean corpuscular volume can predict worse prognosis in patients with esophageal squamous cell carcinoma who have undergone curative esophagectomy.	Annals of Surgery Open 3(2):p e165, June 2022.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
71	Yamashita K, Komohara Y, Uchihara T, Arima K, Uemura S, Hanada N, Baba H	消化器外科	A rare case of perforation of a colorectal tumor by a fish bone.	Clin J Gastroenterol. 2022 Jun;15(3):598-602.	Case report
72	Imai K, Miyamoto Y, Tamura Y, Hayashi H, Ikeda O, Yamashita YI, Baba H	消化器外科	Simultaneous portal vein embolization and colorectal resection in a hybrid interventional radiology/operating suite for synchronous colorectal liver metastases.	J Gastrointest Surg. 2022 Jun;26(6):1307- 1310.	Others
73	Kawata A, Imai K, Tamura Y, Kaida T, Mima K, Nakagawa S, Hayashi H, Yamashita Y, Ikeda O, Baba H	消化器外科	Gastrointestinal: Superior mesenteric vein aneurysm treated using interventional radiology	Gastroenterol Hepatol. 2022 Jul;37(7):1209.	Review
74	Yamashita YI, Yamao T, Nakao Y, Miyata T, Ikegami Y, Yamane S, Ito T, Furukawa T, Cho J, Wu F, Fujie Y, Arima M, Aishima S, Ijima H, Baba H	消化器外科	Efficacy of a newly developed bioabsorbable pancreatic clip for distal pancreatectomy in swine.	Surg Today. 2022 Jul;52(7):1109-1114.	Original Article
75	Yoshida N, Eto K, Kurashige J, Izumi D, Sawayama H, Horinouchi T, Iwatsuki M, Baba Y, Miyamoto Y, Baba H	消化器外科	Comprehensive analysis of multiple primary cancers in patients with esophageal squamous cell carcinoma undergoing esophagectomy.	Ann Surg. 2022 Aug 1;276(2):305-311.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
76	Horino T, Tokunaga R, Baba H	消化器外科	Collateral circulation from inferior mesenteric artery.	Surgery. 2022 Aug;172(2):e21-e22.	Others
77	Kitano Y, Hayashi H, Matsumoto T, Nakao Y, Kaida T, Mima K, Imai K, Yamashita YI, Baba H	消化器外科	The efficacy of anatomic resection for hepatocellular carcinoma within Milan criteria: A retrospective single- institution case-matched study.	Eur J Surg Oncol. 2022 Sep;48(9):2008-2013.	Original Article
78	Miyata T, Matsumoto T, Nakao Y, Higashi T, Imai K, Hayashi H, Nitta H, Chikamoto A, Beppu T, Yamashita YI, Baba H	消化器外科	Major postoperative complications are associated with early recurrence of hepatocellular carcinoma following hepatectomy.	Langenbecks Arch Surg. 2022 Sep;407(6):2373- 2380.	Original Article
79	Mima K, Imai K, Kaida T, Matsumoto T, Nakagawa S, Sawayama H, Hayashi H, Yamashita YI, Baba H	消化器外科	Impairment of perioperative activities of daily living is associated with poor prognosis following hepatectomy for hepatocellular carcinoma.	J Surg Oncol. 2022 Nov;126(6):995-1002.	Original Article
80	Miyamoto Y, Ogawa K, Ohuchi M, Tokunaga R, Baba H	消化器外科	Emerging evidence of immunotherapy for colorectal cancer.	Ann Gastroenterol Surg. 2022 Nov 8;7(2):216- 224.	Review

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
81	Kosumi K, Mima K, Kanemitsu K, Tajiri T, Takematsu T, Sakamoto Y, Inoue M, Miyamoto Y, Mizumoto T, Kubota T, Miyanari N, Baba H	消化器外科	Self-expanding metal stent placement and pathological alterations among obstructive colorectal cancer cases.	World J Gastrointest Endosc. 2022 Nov 16;14(11):704-717.	Original Article
82	Yoshida N, Eto K, Baba H	消化器外科	ASO authorreflections: Insufficient preoperative smoking cessation may deteriorate postoperative prognosis for esophageal cancer.	Ann Surg Oncol. 2022 Dec;29(13):8181-8182.	Others
83	Yoshida N, Eto K, Horinouchi T, Harada K, Sawayama H, Ogawa K, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Ishimoto T, Baba Y, Miyamoto Y, Baba H	消化器外科	Preoperative smoking cessation and prognosis after curative esophagectomy for esophageal cancer: A cross-sectional study.	Ann Surg Oncol. 2022 Dec;29(13):8172-8180.	Original Article
84	Sawayama H, Miyamoto Y, Ogawa K, Ohuchi M, Hisano Y, Kato M, Tubakihara H, Yoshida N, Baba H	消化器外科	Pathologic complete response after laparoscopic surgery following treatment with nivolumab and ipilimumab for anticancer drug- resistant MSI-high descending colon cancer: a case report and literature review.	Surg Case Rep. 2022 Dec 27;8(1):223.	Case report
85	Tubakihara H, Sawayama H, Komohara Y, Miyamoto Y, Ogawa K, Ohuchi M, Yoshida N, Baba H	消化器外科	A case of familial adenomatous polyposis with protein-losing enteropathy treated by laparoscopic total colorectal resection: A literature review.	Asian J Endosc Surg. 2023 Jan;16(1):77-81.	Review

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
86	Yoshida N, Eto K, Matsumoto T, Kosumi K, Imamura Y, Iwatsuki M, Baba Y, Miyamoto Y, Watanabe M, Baba H	消化器外科	Omental flap wrapping around the esophagogastric anastomosis and association with anastomotic leak in esophagectomy for esophageal cancer: A propensity score- matching analysis.	J Am Coll Surg. 2023 Jan 1;236(1):189-197.	Original Article
87	Mima K, Nakagawa S, Miyata T, Yamashita YI, Baba H	消化器外科	Frailty and surgical outcomes in gastrointestinal cancer: Integration of geriatric assessment and prehabilitation into surgical practice for vulnerable patients.	Ann Gastroenterol Surg. 2022 Jul 12;7(1):27-41.	Review
88	Mima K, Hayashi H, Yumoto S, Matsumoto T, Tsukamoto M, Miyata T, Nakagawa S, Nitta H, Baba H	消化器外科	Disability in perioperative activities of daily living is associated with worse survival outcomes following hepatic resection in patients with intrahepatic cholangiocarcinoma.	Hepatol Res. 2023 Feb;53(2):135-144.	Original Article
89	Miyata T, Sugi K, Horino T, Ono A, Tagayasu Y, Nomoto D, Inoue M, Mizumoto T, Kubota T, Yanagida E, Murayama T, Miyanari N, Baba H	消化器外科	Conversion surgery after atezolizumab plus bevacizumab for primary and peritoneal metastasis after hepatocellular carcinoma rupture.	Anticancer Res. 2023 Feb;43(2):943-947.	Case report
90	Harada K, Matsumoto C, Toihata T, Kosumi K, Iwatsuki M, Baba Y, Ohuchi M, Eto K, Ogawa K, Sawayama H, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H	消化器外科	C-Reactive protein levels after esophagectomy are associated with increased surgical complications and poor prognosis in esophageal squamous cell carcinoma patients.	Ann Surg Oncol. 2023 Mar;30(3):1554-1563.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
91	Horino T, Tokunaga R, Miyamoto Y, Hiyoshi Y, Akiyama T, Daitoku N, Sakamoto Y, Yoshida N, Baba H	消化器外科	The impact of the advanced lung cancer inflammation index on the outcomes of patients with metastatic colorectal cancer who receive chemotherapy.	Int J Clin Oncol. 2023 Mar;28(3):400-408.	Original Article
92	Yamamoto Y, Iwata H, Taira N, Masuda N, Takahashi M, Yoshinami T, Ueno T, Toyama T, Yamanaka T, Takano T, Kashiwaba M, Tsugawa K, Hasegawa Y, Tamura K, Tada H, Hara F, Fujiwara T, Niikura N, Saji S, Morita S, Toi M, Ohno S.	乳腺・内分泌外科	Pertuzumab retreatment for HER2-positive advanced breast cancer: A randomized, open- label phase III study (PRECIOUS)	Cancer Sci . 2022 Sep;113(9):3169- 3179.	Original Article
93	Yamamoto Y, Yamashiro H, Schneeweiss A, Müller V, Gluz O, Klare P, Aktas B, Magdolna D, Büdi L, Pikó B, Mangel L, Toi M, Morita S, Ohno S.	乳腺・内分泌外科	Factors affecting prognosis in patients treated with bevacizumab plus paclitaxel as first-line chemotherapy for HER2-negative metastatic breast cancer: an international pooled analysis of individual patient data from four prospective observational studies	Breast Cancer . 2023 Jan;30(1):88-100	Original Article
94	Sueta A, Takeno M, Goto- Yamaguchi L, Tomiguchi M, Inao T, Yamamoto-Ibusuki M, Yamamoto Y.	乳腺・内分泌外科	A progressive and refractory case of breast cancer with Cowden syndrome.	World J Surg Oncol. 2022 Sep 3;20(1):279.	Case report
95	Hirukawa K, Masuda Y, Abe Y, Yagi H, Ibuki S, Itano O, Shinoda M, Kitago M, Hasegawa Y, Hori S, Tanaka M, Nakano Y, Matsubara K, Obara H, Yamada Y, Kuroda T, Hibi T, Kitagawa Y.	小児外科・移植外科	Standardized upfront Glissonean approach and liver hanging maneuver reduces bile leakage from the hepatic hilum in living donors.	Liver Transpl . 2023 Jan 1;29(1):48- 57.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
96	Sugawara Y, Hibi T.	小児外科・移植外科	Liver transplantation for patients with hepatocellular carcinoma: Its current status and advances.	Biosci Trends . 2022 Jul 20;16(3):207-211.	Review
97	Ishii M, Itano O, Iwamoto H, Hibi T, Itano S.	小児外科・移植外科	Efficacy and Safety of Arterial Infusion Chemotherapy in Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma and Child-Pugh Class B: A Retrospective Cohort Study.	Oncology . 2022 May;100(5):278-289	Others
98	Hibi T.	小児外科・移植外科	Nontransplant options for portomesenteric thrombosis.	Curr Opin Organ Transplant . 2022 Apr 1;27(2):144-147.	Review
99	Yamamoto H, Sambommatsu Y, Ishii M, Shimata K, Isono K, Honda M, Sugawara Y, Inomata Y, Hibi T.	小児外科・移植外科	Surgical Outcomes of Domino Liver Transplantation Using Grafts From Living Donors With Familial Amyloid Polyneuropathy.	Liver Transpl . 2022 Apr;28(4):603-614	Others
100	Kadohisa M, Inomata Y, Sakisaka M, Sugawara Y, Hibi T.	小児外科・移植外科	Massive duodenal ulcer bleeding due to the ruptured hepatic artery pseudoaneurysm after living donor liver transplantation	Surg Case Rep . 2022 Oct 18;8(1):199	Case report

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
101	Ibuki S, Hibi T, Tanabe M, Geller DA, Cherqui D, Wakabayashi G; INSTALL-2 Collaborative Study Group.	小児外科・移植外科	Short-term Outcomes of "Difficult" Laparoscopic Liver Resection at Specialized Centers: Report From INSTALL (International Survey on Technical Aspects of Laparoscopic Liver Resection)-2 on 4478 Patients.	Ann Surg . 2022 May 1;275(5):940-946.	Original Article
102	Honda M, Uchida K, Irie T, Hirukawa K, Kadohisa M, Shimata K, Isono K, Shimojima N, Sugawara Y, Hibi T.	小児外科・移植外科	Recent advances in surgical strategies and liver transplantation for hepatoblastoma.	Cancer Med . 2023 Feb;12(4):3909-3918	Review
103	Tomita M, Okabe H, Masuda T, Ono A, Kuroda D, Kuroki H, Hirota M, Hibi T, Baba H, Sugita H.	小児外科・移植外科	A case of accessory hepatic duct entering cystic duct successfully treated by laparoscopic cholecystectomy for cholecystolithiasis.	Asian J Endosc Surg . 2023 Mar	Case report
104	Honda M, Kadohisa M, Yoshii D, Komohara Y, Hibi T.	小児外科・移植外科	Intravital imaging of immune responses in intestinal inflammation.	Inflamm Regen . 2023 Feb 3;43(1):9.	Review
105	Segawa T, Motoshima T, Yatsuda J, Kurahashi R, Fukushima Y, Murakami Y, Yamaguchi T, Sugiyama Y, Yoshida R, Nakayama H, Kamba T.	泌尿器科	Sicca syndrome during ipilimumab and nivolumab therapy for metastatic renal cell carcinoma: A case report.	IJU Case Rep. 2023 Mar;6(2):147-149.	Case report

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
106	Uekawa A, Kurahashi R, Motoshima T, Murakami Y, Yatsuda J, Kamba T.	泌尿器科	Efficacy of avelumab plus axitinib for advanced renal cell carcinoma as late-line therapy: A case report.	Urol Case Rep. 2022 Nov;45:102198.	Case report
107	Murakami H, Motoshima T, Kurahashi R, Murakami Y, Sugiyama Y, Yamaguchi T, Yatsuda J, Asato T, Mikami Y, Kamba T.	泌尿器科	Clear cell carcinoma of the seminal vesicle in a young adult.	IJU Case Rep. 2022 Sep;5(5):406-409.	Case report
108	Yamaguchi T, Sugiyama Y, Tanaka T, Kimura T, Yumura Y, Nakano M, Sugiyama T, Miura N, Goya M, Yamamoto A, Takahashi S, Miura Y, Tsuzuki T, Masumori N, Nishiyama H, Yao M, Koie T, Miyake H, Saika T, Saito S, Akimoto T, Tamada T, Ando Y, Takahashi S, Suzuki T, Hinotsu S, Kamba T.	泌尿器科	Summary of the clinical practice guidelines for penile cancer 2021 by the Japanese Urological Association.	Int J Urol. 2022 Aug;29(8):780-792.	Original Article
109	Harada N, Yatsuda J, Kurahashi R, Fukushima Y, Segawa T, Motoshima T, Murakami Y, Yamaguchi T, Sugiyama Y, Kamba T.	泌尿器科	Subcapsular renal hematoma after ureterorenoscopy.	IJU Case Rep. 2022 Jul;5(4):281-285.	Case report
110	Yamada-Kanazawa S, Shimada S, Nakayama W, Sawamura S, Nishimura Y, Kajihara I, Makino K, Aoi J, Masuguchi S, Amano F, Fukushima S.	皮膚科・形成外科	A study of 95 infantile hemangiomas treated with propranolol: A potentially efficacious combination with laser therapy.	Drug Discov Ther . 2023 Mar 11;17(1):70- 72.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
111	Fukushima S	皮膚科・形成外科	Future prospects for cancer immunotherapy using induced pluripotent stem cell-derived dendritic cells or macrophages.	Exp Dermatol . 2023 Mar;32(3):290-296.	Review
112	Maeda-Otsuka S,Tselmeg Mijiddorj M,Kajihara I,Nishimura Y,Kanemaru H,Sawamura S,Makino K,Aoi J,Masuguchi S,Fukushima S.	皮膚科・形成外科	Analysis of microsatellite instability using Promega panel in dermatofibrosarcoma protuberans.	Biosci Trends . 2022 May 17;16(2):176-177.	Original Article
113	Kanemaru H,Mizukami Y,Kaneko A,Kajihara I,Fukushima S	皮膚科・形成外科	Promising Blood-Based Biomarkers for Melanoma: Recent Progress of Liquid Biopsy and Its Future Perspectives.	Curr Treat Options Oncol . 2022 Apr;23(4):562-577.	Review
114	Sawamura S,Makino K,Ide M,Shimada S,Kajihara I,Makino T, Jinnin M,Fukushima S	皮膚科・形成外科	Elevated Alpha 1(I) to Alpha 2(I) Collagen Ratio in Dermal Fibroblasts Possibly Contributes to Fibrosis in Systemic Sclerosis.	Int J Mol Sci . 2022 Jun 18;23(12):6811.	Original Article
115	Kaneko A, Kanemaru H, Mizuhashi S, Kimura T, Kuriyama H, Sawamura S, Kajihara I, Makino K, Miyashita A, Aoi J, Masuguchi S, Fukushima S.	皮膚科・形成外科	Relationship between Type 2 diabetes mellitus and aggressiveness of melanoma.	J Dermatol Sci . 2022 Apr;106(1):65-67.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
116	Sawamura S, Mijiddorj T, Kajihara I, Tanaka K, Kanemaru H, Nishimura Y, Kashiwada-Nakamura K, Makino K, Aoi J, Masuguchi S, Fukushima S	皮膚科・形成外科	Genomic mutation analysis of circulating tumor DNA in metastatic cutaneous squamous cell carcinoma.	J Dermatol Sci . 2022 Apr;106(1):61-64.	Original Article
117	Yamada-Kanazawa S, Mijiddorj M T, Kajihara I, Kanemaru H, Sawamura S, Makino K, Aoi J, Masuguchi S, Fukushima S	皮膚科・形成外科	Upregulated androgen receptor variant-7 mRNA and protein in extramammary Paget's disease	J Eur Acad Dermatol Venereol . 2022 Sep;36(9):e724-e726.	Letter
118	Yamada-Kanazawa S, Mijiddorj MT, Kajihara I, Kanemaru H, Sawamura S, Makino K, Aoi J, Masuguchi S, Fukushima S	皮膚科・形成外科	Circulating phospholipase A2 group IV D DNA copies are elevated in psoriasis	J Eur Acad Dermatol Venereol . 2022 Apr;36(4):e302-e304.	Letter
119	Kusaba Y, Kajihara I, Myangat TM, Tanaka K, Kanemaru H, Sawamura S, Makino K, Aoi J, Masuguchi S, Fukushima S.	皮膚科・形成外科	Clinical significance of ERBB2 S310F mutation in extramammary Paget's disease.	J Dermatol . 2022 Sep;49(9):e305-e306.	Letter
120	Sawamura S, Kajihara I, Sakamoto R, Otsuka-Maeda S, Kanemaru H, Kanazawa-Yamada S, Makino K, Aoi J, Masuguchi S, Fukushima S.	皮膚科・形成外科	Elevation of circulating interleukin-23 DNA levels in patients with psoriasis.	J Dermatol . 2022 Sep;49(9):e295-e296.	Letter

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
121	Kusaba Y, Kajihara I, Myangat TM, Tanaka K, Sakamoto R, Maeda-Otsuka S, Yamada-Kanazawa S, Sawamura S, Kanemaru H, Nishimura Y, Nakamura- Kashiwada K, Makino K, Miyashita A, Aoi J, Masuguchi S, Fukushima S.	皮膚科・形成外科	Intertumor and intratumor heterogeneity of PIK3CA mutations in extramammary Paget's disease.	J Dermatol . 2022 May;49(5):508- 514.	Original Article
122	Kusaba Y, Kajihara I, Sawamura S, Kanemaru H, Makino K, Aoi J, Masuguchi S, Morinaga J, Fukushima S.	皮膚科・形成外科	Clinical significance of maximum standardized uptake value of positron emission tomography/computed tomography as prognostic factor in extramammary Paget's disease.	J Dermatol . 2022 Jun;49(6):e201- e202.	Letter
123	Kuriyama H, Kimura T, Mizuhashi S, Nishimura Y, Kanemaru H, Kajihara I, Makino K, Aoi J, Matsui H, Fukushima S.	皮膚科・形成外科	A Japanese case of melanoma of unknown origin with a rare BRAFV600R mutation was successfully treated with BRAF/MEK inhibitors.	Drug Discov Ther . 2022 Nov 20;16(5):256-257.	Case report
124	Yamada-Kanazawa S, Jinnin M, Fukushima S.	皮膚科・形成外科	Nevus of Ota on the auricle successfully treated with Q-switched ruby laser.	Drug Discov Ther . 2022 Nov 20;16(5):254-255.	Case report
125	Kashiwada-Nakamura K, Noguchi H, Hiruma M, Tanaka M, Yaguchi T, Kusaba Y, Miyashita A, Hayashi H, Fukushima S.	皮膚科・形成外科	Dermoscopic findings of sporotrichosis manifesting as a punched-out ulcer.	J Dermatol . 2022 Dec;49(12):e449- e450.	Case report

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
126	Setsu Murakami-Kojima, Eri Takahashi, Momoka Eguchi-Matsumoto, Junji Saruwatari, Kei-Ichi Nakashima, Toshihiro Inoue	眼科	Risk factors for intraocular pressure elevation in a six-month period after ab interno trabeculectomy using a Kahook Dual Blade	BMC Ophthalmol . 2022 Jul 30;22(1):327.	Original Article
127	Daizo Murakami, Satoru Miyamaru , Kohei Nishimoto, Momoko Ise, Yasuhiro Samejima, Shiro Ozasa, Kimitoshi Nakamura, Yori-hisa Orita	耳鼻咽喉科・頭頸部外 科	Therapeutic outcomes of laryngeal closure and laryngostomy in children with recurrent pneumonia	Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 2022 Sep;160:111225.	Original Article
128	Iwamoto A, Tsukamoto H, Nakayama H, Oshiumi H.	歯科口腔外科学講座	E3 Ubiquitin Ligase Riplet Is Expressed in T Cells and Suppresses T Cell-Mediated Antitumor Immune Responses.	J Immunol. 2022 Apr 15;208(8):2067-2076.	Original Article
129	Matsuoka Y, Yoshida R, Kawahara K, Sakata J, Arita H, Nakashima H, Takahashi N, Hirayama M, Nagata M, Hirosue , Kuwahara Y, Fukumoto M, Toya R, Murakami R, Nakayama H.	歯科口腔外科学講座	The antioxidative stress regulator Nrf2 potentiates radioresistance of oral squamous cell carcinoma accompanied with metabolic modulation.	Lab Invest. 2022 Aug;102(8):896-907.	Original Article
130	Hirayama M, Inoue K, Arita H, Takahashi N, Nakashima H, Sakata J, Maeshiro M, Nagao Y, Gohara S, Yamana K, Matsuoka Y, Yuno A, Nakamoto M, Kawahara K, Nagata M, Hirosue A, Fukuma D, Yoshida R, Nakayama H.	歯科口腔外科学講座	Three-dimensional volumetric analysis of the efficiency of marsupialization in patients with mandibular dentigerous cysts involving impacted third molars.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2022 Nov, 34(6):690-697	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
131	Hirayama M, Nagata M, Yoshida R, Nakamoto M, Yuno A, Maeshiro M, Fukuma D, Nakayama H.	歯科口腔外科学講座	A rare case of cervical tuberculous lymphadenitis followed by impaired consciousness.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2022 Sep, 34 (5)、661-664	Case report
132	Shigematsu S, Oda S, Sakabe D, Matsuoka A, Hayashi H, Taguchi N, Kidoh M, Nagayama Y, Nakaura T, Murakami M, Hatemura M, Hirai T.	画像診断・治療科 中央放射線部	Practical Preventive Strategies for Extravasation of Contrast Media During CT: What the Radiology Team Should Do	Acad Radiol. 2022 Oct;29(10):1555-1559.	Original Article
133	Kidoh M, Oda S, Nakaura T, Nagayama Y, Funama Y, Takashio S, Kaikita K, Tsujita K, Hirai T.	画像診断・治療科	Myocardial Tissue Characterization by Combining Extracellular Volume Fraction and T2 Mapping	JACC Cardiovasc Imaging. 2022 Apr;15(4):700-704.	Others
134	Hayashi H, Oda S, Kidoh M, Nakaura T, Morita K, Nagayama Y, Yoneda T, Takashio S, Misumi Y, Ueda M, Tsujita K, Hirai T.	画像診断・治療科	Can myocardial susceptibility quantification be an imaging biomarker for cardiac amyloidosis?	Jpn J Radiol. 2022 May;40(5):500-507.	Original Article
135	Ogasawara K, Shiraishi S, Tsuda N, Sakamoto F, Oda S, Takashio S, Tsujita K, Hirai T.	画像診断・治療科	Usefulness of quantitative (99m)Tc- pyrophosphate SPECT/CT for predicting the prognosis of patients with wild- type transthyretin cardiac amyloidosis	Jpn J Radiol. 2022 May;40(5):508-517.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
136	Uetani H, Nakaura T, Kitajima M, Morita K, Haraoka K, Shinojima N, Tateishi M, Inoue T, Sasao A, Mukasa A, Azuma M, Ikeda O, Yamashita Y, Hirai T.	画像診断・治療科	Hybrid deep-learning-based denoising method for compressed sensing in pituitary MRI: comparison with the conventional wavelet-based denoising method	Eur Radiol. 2022 Jul;32(7):4527-4536.	Original Article
137	Nagayama Y, Goto M, Sakabe D, Emoto T, Shigematsu S, Taguchi N, Maruyama N, Takada S, Uchimura R, Hayashi H, Kidoh M, Oda S, Nakaura T, Funama Y, Hatemura M, Hirai T.	画像診断・治療科	Radiation dose optimization potential of deep learning-based reconstruction for multiphase hepatic CT: A clinical and phantom study	Eur J Radiol. 2022 Jun;151:110280.	Original Article
138	Hayashi H, Oda S, Emoto T, Kidoh M, Nagayama Y, Nakaura T, Sakabe D, Tokuyasu S, Hirakawa K, Takashio S, Yamamoto E, Tsujita K, Hirai T.	画像診断・治療科	Myocardial extracellular volume quantification by cardiac CT in pulmonary hypertension: Comparison with cardiac MRI	Eur J Radiol. 2022 Aug;153:110386.	Original Article
139	Sato K, Oda S, Kidoh M, Ishiuchi S, Kamimoto M, Kanaya H, Nomura T, Kuyama N, Ueda M, Tsujita K, Hirai T.	画像診断・治療科	Myocarditis in Myasthenia Gravis - Multiparametric Evaluation Using Cardiac Magnetic Resonance Imaging	Circ J. 2022 Oct 25;86(11):1788.	Case report
140	Kitajima M, Uetani H.	画像診断・治療科	Arterial Spin Labeling for Pediatric Central Nervous System Diseases: Techniques and Clinical Applications	Magn Reson Med Sci. 2023 Jan 1;22(1):27-43.	Review

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
141	Nakagawa M, Nakaura T, Yoshida N, Azuma M, Uetani H, Nagayama Y, Kidoh M, Miyamoto T, Yamashita Y, Hirai T.	画像診断・治療科	Performance of Machine Learning Methods Based on Multi-Sequence Textural Parameters Using Magnetic Resonance Imaging and Clinical Information to Differentiate Malignant and Benign Soft Tissue Tumors	Acad Radiol. 2023 Jan;30(1):83-92.	Original Article
142	Goto M, Nagayama Y, Sakabe D, Emoto T, Kidoh M, Oda S, Nakaura T, Taguchi N, Funama Y, Takada S, Uchimura R, Hayashi H, Hatemura M, Kawanaka K, Hirai T.	画像診断・治療科 中央放射線部	Lung-Optimized Deep-Learning-Based Reconstruction for Ultralow-Dose CT	Acad Radiol. 2023 Mar;30(3):431-440.	Original Article
143	Kidoh M, Oda S, Takashio S, Hirakawa K, Kawano Y, Shiraishi S, Hayashi H, Nakaura T, Nagayama Y, Funama Y, Ueda M, Tsujita K, Hirai T.	画像診断・治療科	CT Extracellular Volume Fraction versus Myocardium-to-Lumen Signal Ratio for Cardiac Amyloidosis	Radiology. 2023 Mar;306(3):e220542.	Original Article
144	Ryo Toya, Takahiro Watakabe, Yudai Kai, Tomohiko Matsuyama, Yoshiyuki Fukugawa, Tadashi Matsumoto, Shinya Shiraishi, Yoshinobu Shimohigashi, Sho Saeki, Takuro Sakagami, Toshinori Hirai and Natsuo Oya	放射線治療科	Implementation of ^{99m} Tc-GSA SPECT Image-guided Inverse Planning into Palliative Radiotherapy for Diffuse Liver Metastases: A Novel Approach	In Vivo May 2022, 36 (3) 1523-1526	Case report
145	Yoshiyuki Fukugawa, Ryo Toya, Tomohiko Matsuyama, Takahiro Watakabe, Yoshinobu Shimohigashi, Yudai Kai, Tadashi Matsumoto and Natsuo Oya	放射線治療科	Impact of metal artifact reduction algorithm on gross tumor volume delineation in tonsillar cancer: reducing the interobserver variation	BMC Medical Imaging, 2022 Sep 6;22(1):161-165	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
146	Ryo Toya, Tetsuo Saito, Yoshiyuki Fukugawa, Tomohiko Matsuyama, Tadashi Matsumoto, Shinya Shiraishi, Daizo Murakami, Yorihisa Orita, Toshinori Hirai, Natsuo Oya	放射線治療科	Prevalence and risk factors of retro-styloid lymph node metastasis in oropharyngeal carcinoma	Annals of medicine 2022 Dec;54(1) 436-441	Original Article
147	Imai T, Ochiai S, Ishimaru T, Daitoku H, Miyagawa Y, Fukuhara R, Boku S, Takebayashi M.	神経精神科	A case report: Clozapine-induced leukopenia and neutropenia after mRNA COVID-19 vaccination.	Neuropsychopharmacol Rep. 2022 Jun; 42(2):238-240	Original Article
148	Yoshiura K, Fukuhara R, Ishikawa T, Tsunoda N, Koyama A, Miyagawa Y, Hidaka Y, Hashimoto M, Ikeda M, Takebayashi M, Shimodozono M.	神経精神科	Brain structural alterations and clinical features of cognitive frailty in Japanese community-dwelling older adults: the Arao study (JPSC-AD).	Sci Rep. 2022 May; 12(1): 8202	Original Article
149	Sasaki H, Jono T, Fukuhara R, Honda K, Ishikawa T, Boku S, Takebayashi M	神経精神科	Late-manifestation of attention- deficit/hyperactivity disorder in older adults: an observational study	BMC Psychiatry. 2022 May; 22(1): 354	Original Article
150	Hidaka Y, Hashimoto M, Suehiro T, Fukuhara R, Ishikawa T, Tsunoda N, Koyama A, Honda K, Miyagawa Y, Yoshiura K, Boku S, Ishii K, Ikeda M, Takebayashi M.	神経精神科	Impact of age on the cerebrospinal fluid spaces: high-convexity and medial subarachnoid spaces decrease with age.	Fluids Barriers CNS. 2022 Oct; 19(1): 82	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
151	Tsukano Y, Sugita M, Hirata N, Yamamoto T.	麻酔科	Future liver remnant volume is associated with postoperative fentanyl consumption following open donor hepatectomy: a retrospective multivariate analysis.	J Anesth 2022 Dec; 36(6): 731-9	Original Article
152	Kawasaki T, Oyoshi T, Hirata N	麻酔科	Anesthesia Management of a Liver Transplant Recipient with Remimazolam	Case Rep Anesthesiol 2023; 12: 2023 Jan: 593657	Case report
153	Mitsuta Y, Oyoshi T, Nonaka T, Hirata N	麻酔科	Transcatheter aortic valve implantation under lower activated clotting time in a patient with hemorrhagic gastric cancer: a case report.	JA Clin Rep 2022 Oct3; 8(1): 877	Case report
154	Inoue H, Kawano T, Iwasaki Y, Imada I, Yamada K, Tashima K, Muta D, Yamamoto K, Mukasa A.	脳神経外科	Two weeks administration of tranexamic acid for acute intracerebral hemorrhage: A hospital- based pilot study	Surg Neurol Int. 2023 Feb 24; 14:76 Surg Neurol Int.2023 Feb (オンライン)	Original Article
155	Matsuzaki H, Komohara Y, Yano H, Fujiwara Y, Kai K, Yamada R, Yoshii D, Uekawa K, Shinojima N, Mikami Y, Mukasa A.	脳神経外科	Macrophage colony- stimulating factor potentially induces recruitment and maturation of macrophages in recurrent pituitary neuroendocrine tumors	Microbiol Immunol 2023 Feb; 67(2):90-98	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
156	Itoyama T, Nakaura T, Hamasaki T, Takezaki T, Uentani H, Hirai T, Mukasa A.	脳神経外科	Whole Tumor Radiomics Analysis for Risk Factors Associated With Rapid Growth of Vestibular Schwannoma in Contrast-Enhanced T1- Weighted Images	World Neurosurg 2022 Oct; 166:e572- e582.	Original Article
157	Hamasaki T, Uchikawa H, Ohmori Y, Kaku Y, Ono T, Tochihara S, Hirai T, Kawano T, Mukasa A.	脳神経外科	Variations in the branching patterns of the anterior choroidal artery: an angiographic study with special reference to temporal lobe epilepsy surgery	Acta Neurochir (Wien) 2022 Aug; 164(8):2165-2172.	Original Article
158	M Gotoh, T.Nakaura Y.Funama K.Morita D.Sakabe H.Uetani Y.Nagayam M.Kidoh M.Hatemura T.Masuda T.Hirai	画像診断・治療科 中央放射線部	Virtual magnetic resonance lumbar spine images generated from computed tomography images using conditional generative adversarial networks	Radiography Volume 28, Issue 2, May 2022, Pages 447-453	Original Article
159	Yasuhiro Doi, Yoshinobu Shimohigashi, Yudai Kai , Masato Maruyama, Ryo Toya	中央放射線部	Validation of four- dimensional computed tomography without external reference respiratory signals for radiation treatment planning of lung tumors	Biomed Phys Eng Express. 2022 Aug 10;8(5)	Original Article
160	Kinoshita Y, Sakamoto R, Hattori Y, Furuie K, Kuraoka S, Hidaka Y, Tamura H, Mitsubuchi H, Nakamura K.	小児科	Elective Cesarean Section during Preterm Prevents Pulmonary Hypoplasia Development in Potter Sequence.	Case Rep Pediatr. 2023 Jan 31;2023:3216232.	Case report

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
161	Nakamuara T, Iwai M, Inoue T, Irie H, Karasugi T, Seki A, Hamaguchi M, Kuraoka S, Mizukami T, Nakamura K.	小児科	A neonate with multiple hand flexor tendon ruptures due to methicillin-susceptible Staphylococcus aureus sepsis: a case report.	BMC Pediatr. 2023 Feb 9;23(1):68.	Case report
162	Kido J, Sugawara K, Nakamura K.	小児科	Gene therapy for lysosomal storage diseases: Current clinical trial prospects.	Front Genet. 2023 Jan 13;14:1064924	Review
163	Nagamatsu F, Kido J, Sugino Y, Nakamura T, Nakamura R, Komatsu N, Miyamoto D, Hamada Y, Kashiwagi T, Sugino S, Kiyohara H, Nakamura K, Matsumoto S.	小児科	Outcomes of pediatric obesity-related lifestyle disease screenings in Kumamoto.	Pediatr Int. 2023 Jan-Dec;65(1):e15442.	Original Article
164	Kido J, Sugawara K, Sawada T, Matsumoto S, Nakamura K.	小児科	Pathogenic variants of ornithine transcarbamylase deficiency: Nation-wide study in Japan and literature review.	Front Genet. 2022 Oct 11;13:952467.	Original Article
165	Kuraoka S, Oda M, Mitsubuchi H, Nakamura K, Katoh T,	小児科	Impaired Height Growth Associated with Vitamin D Deficiency in Young Children from the Japan Environment and Children's Study.	Nutrients. 2022 Aug 13;14(16):3325.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
166	Sawada T, Kido J, Sugawara K, Yoshida S, Ozasa S, Nomura K, Okada K, Fujiyama N, Nakamura K.	小児科	Newborn screening for spinal muscular atrophy in Japan: One year of experience.	Mol Genet Metab Rep. 2022 Aug 2;32:100908	Original Article
167	Kawabata K, Kido J, Yoshida T, Matsumoto S, Nakamura K.	小児科	A case report of two siblings with hypertyrosinemia type 1 presenting with hepatic disease with different onset time and severity.	Mol Genet Metab Rep. 2022 Jul 1;32:100892.	Case report
168	Miyamura F, Matsuo O, Nakamura K.	小児科	Torsion of wandering spleen after Fontan operation in a patient with situs inversus: a rare complication.	Cardiol Young. 2022 Jun 3:1-2.	Case report
169	Tanaka K, Matsumoto S, Minamitani Y, Imamura H, Yoshimatsu H, Nakamura T, Naramura T, Iwai M, Mitsubuchi H, Nakamura K.	小児科	Changes in Internal Cerebral Vein Pulsation and Intraventricular Hemorrhage in Extremely Preterm Infants.	Am J Perinatol. 2022 Jun 12.	Original Article
170	Kido J, Häberle J, Sugawara K, Tanaka T, Nagao M, Sawada T, Wada Y, Numakura C, Murayama K, Watanabe Y, Kojima-Ishii K, Sasai H, Kosugiyama K, Nakamura K.	小児科	Clinical manifestation and long-term outcome of citrin deficiency: Report from a nationwide study in Japan.	J Inherit Metab Dis. 2022 May;45(3):431-444.	Original Article

小計 5

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価の実績(論文発表等の実績)

論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
171	Iwai M, Yoshimatsu H, Naramura T, Imamura H, Nakamura T, Sakamoto R, Inoue T, Tanaka K, Matsumoto S, Nakamura K, Mitsubuchi H.	小児科	Procalcitonin is associated with postnatal respiratory condition severity in preterm neonate.	Pediatr Pulmonol. 2022 May;57(5):1272-1281.	Original Article

小計 1

総計 171

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の主な内容・ 研究者、研究責任者、研究部長及び病院長の責務・ 人を対象とする生命科学・医学系研究倫理審査申請の受付から審査までの業務手順・ 研究開始から終了に係る業務手順・ 研究の倫理、研究実施に必要な知識および技術に関する教育・研修	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年8回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 規定の主な内容・ 熊本大学大学院生命科学研究部等医学系研究利益相反委員会の設置・ 臨床研究に係る利益相反申告書の提出・ 委員会による審査結果、指導・勧告、異議申し立て、情報開示	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年692回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
-----------------------	-----

・研修の主な内容

令和2年・3年個人情報保護法の改正に伴う生命・医学系指針の改正について

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none">・ 英語論文の抄読会・ 新患カンファレンス・ 手術カンファレンス・ 病理カンファレンス・ 画像診断カンファレンス・ リサーチカンファレンス・ 症例検討会・ 実習トレーニング・ スキルアップセミナー・ 各種勉強会・ 教員レクチャー など

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	210,500人
-------------	----------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
坂上 拓郎	呼吸器内科	教授	25年	
田中 靖人	消化器内科	教授	31年	
松岡 雅雄	血液内科	教授	40年	
松岡 雅雄	膠原病内科	教授	40年	
向山 政志	腎臓内科	教授	39年	
荒木 栄一	糖尿病・代謝・ 内分泌内科	教授	39年	
辻田 賢一	循環器内科	教授	24年	
植田 光晴	脳神経内科	教授	23年	
福井 寿啓	心臓血管外科	教授	28年	
鈴木 実	呼吸器外科	教授	33年	
宮本 裕士	消化器外科	准教授	24年	
山本 豊	乳腺・内分泌外 科	教授	31年	
日比 泰造	小児外科	教授	24年	
日比 泰造	移植外科	教授	24年	
神波 大己	泌尿器科	教授	30年	
近藤 英治	婦人科	教授	24年	
中村 公俊	小児科	教授	32年	
近藤 英治	産科	教授	24年	
宮本 健史	整形外科	教授	34年	
福島 聡	皮膚科	准教授	24年	
増口 信一	形成外科	講師	24年	

井上 俊洋	眼科	教授	25年	
折田 頼尚	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	26年	
中山 秀樹	歯科口腔外科	教授	26年	
平井 俊範	画像診断・治療科	教授	33年	
大屋 夏生	放射線治療科	教授	35年	
竹林 実	神経精神科	教授	30年	
武笠 晃丈	脳神経外科	教授	28年	
平田 直之	麻酔科	教授	22年	
松井 啓隆	中央検査部	教授	27年	
入江 弘基	救急部	教授	27年	
三上 芳喜	病理部	教授	32年	
松岡 雅雄	感染免疫診療部	教授	40年	
宮本 健史	リハビリテーション部	教授	34年	
松井 邦彦	地域医療・総合診療実践学寄附講座（地域医療支援センター）	教授・センター長	33年	総合診療

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【薬剤部】

職員研修を目的として、定期的に新薬説明会、薬の勉強会、薬剤管理指導検討会、病棟業務関連研修等を開催している。

【看護部】

教育理念・教育方針のもと、毎年院内教育計画を策定し、実施している。

【中央検査部】

特定機能病院として高度な臨床検査体制を構築するため、別紙の研修を実施しており、臨床検査の精度保証の向上に努めている。

【ME機器センター】

特定機能病院として、医療機器使用を伴う高度な診療や検査等に対応できるよう、研修を実施している。

【中央放射線部】

特定機能病院としての高度な救急医療や高精度な放射線治療に対応できるよう、研修を実施している。

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

【薬剤部】

別紙（1）のとおり

【看護部】

別紙（2）のとおり

【中央検査部】

別紙（3）のとおり

【ME機器センター】

別紙（4）のとおり

【中央放射線部】

別紙（5）のとおり

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容・・・「個人情報保護」、「院内感染対策」、「医療安全管理」及び「医療機器の安全な使用について」について、医療業務に携わる上で、各職員が必ず習得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知徹底させる

・研修の期間・実施回数・・・令和4年4月1日(金) 外

※採用者があり次第、随時実施

・研修の参加人数・・・273名

(内訳：4月1日採用者109名、中途採用者94名、復職者70名)

※令和4年度実績

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

令和4年度の実績

【薬剤部】

NO	研修名	期間		実施回数	参加数
1	2022年度育児休業取得後の復職者に対する集中講義	令和4年4月1日(金)	～ 令和5年3月31日(金)	復職時3日間	2名
2	2022年度新採用職員に対する集中講義・研修	令和4年4月1日(金)	～ 令和5年3月31日(金)	随時 採用後 1ヶ月間	6名
3	薬剤管理指導検討会	令和4年4月1日(金)	～ 令和5年4月2日(日)	10回	323名
4	病棟業務関連基礎研修	令和5年2月1日(水)	～ 令和5年3月31日(金)	4回	19名
5	新薬説明会	令和4年4月1日(金)	～ 令和5年4月4日(火)	27回	851名
6	くすりの勉強会	令和4年4月1日(金)	～ 令和5年3月31日(金)	4回	70名
7	医療安全研修	令和4年4月1日(金)	～ 令和5年3月31日(金)	10回	486名
8	熊本大学病院薬剤部・地域医療連携研修会	令和4年9月29日(木)	～ 令和5年3月14日(火)	2回	保険薬局外部を含め100名

2022年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
新規採用者オリエンテーション	2022年度新規採用者 2021年度中途採用者 (2022年4月採用者)	病院・看護部の組織と機能を学び、看護師としての心構えを習得できる	病院・看護部の組織・方針、病棟と各部門との関係、看護支援システムの概念および看護記録、院内教育、医療業務及び関係法令、病院全体の組織、就業規則、中央部門の看護関連部門、接遇	講義 e-ラーニング	4/1(金)～4/7(木)	医療の質・安全管理部、感染制御部、事務職員、看護部、教育支援室、中央部門看護師長	医学総合研究棟3階講習室 東病棟12階多目的ホール	63人	25時間15分
社会人としての基本姿勢とコミュニケーション I	2022年度新規採用看護師	1)社会人として自覚と責任ある行動が取れる 2)社会人として「報告・連絡・相談」を実施できる 3)組織における役割、心構えを理解する	社会人としての心構えと組織における役割、コミュニケーションのとり方、専門職業人としての基本的姿勢と態度、医療者にとって必要な接遇について	講義 グループワーク	4/4(月) 10:00～12:00	看護教育支援室 牛島輝美看護師長	東病棟12階多目的ホール	58人	2時間
メンタルヘルス研修	2022年度新規採用看護師	メンタルヘルスとは何かを知り、自身の心の健康状態に気づきストレスに対応できる	1)ストレスとメンタルヘルス不調 2)セルフケア(ストレス対処法、考え方のくせなど) 3)話すことの効果	講義 グループワーク	4/5(火) 8:30～9:30	熊本大学病院医療の質・安全管理部:臨床心理士 一美奈緒子先生	東病棟12階多目的ホール	58人	1時間
現場における医療安全	2022年度新規採用者 2021年度中途採用者	医療安全管理に関する基本的な考え方を理解する	組織における医療安全	講義 演習	4/5(火) 9:40～12:30	熊本大学病院ゼネラルリスクマネージャー 森山嘉子看護師長	東病棟12階多目的ホール	58人	3時間
新人看護師のためのメンタルヘルス	2022年度新規採用看護師	メンタルヘルスとは何かを知り、自身の心の健康状態に気づきストレスに対応できる	1)職場における心の健康づくり 2)職場におけるメンタルヘルス対策	講義 リモート グループワーク 演習	4/6(水) 8:30～10:30	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階多目的ホール	59人	2時間
新人看護師のためのバイタルサイン測定研修	2022年度新規採用看護師	1)バイタルサインの意義が理解できる2)バイタルサイン測定の正しい手技を獲得できる3)臨床実践に活かすことができる	1)バイタルサインの意義2)バイタルサイン測定	講義 演習	4/6(水) 10:40～12:00	看護教育支援室 上坂智子	東病棟12階多目的ホール	58人	1時間20分

基礎研修

2022年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
看護倫理	2022年度新規採用看護師	看護師の倫理とは何かを理解し、日常の看護ケアの中で看護師としてどのように行動すべきかを学ぶ	1) 看護師の倫理綱領 2) 看護ケアにおける倫理的問題実践事例の検討	講義 グループワーク	4/6(水) 13:40～15:40	がん看護専門看護師 岡本泰子看護師長	東病棟12階多目的ホール	59人	2時間
感染対策基礎研修	2022年度新規採用看護師	感染対策の基本を理解し、感染予防のための手指衛生と个人防护具の着脱の実践ができる	1) 院内感染対策の基本 2) 標準予防策と感染経路別予防策 3) 針刺し・血液体液曝露防止対策 4) 医療廃棄物の分別方法・取り扱い方法 5) 演習(个人防护具の着脱方法・手指消毒)	講義 演習 小テスト	4/7(木) 8:30～12:00	藤本陽子 手塚美奈 吉田真由美 感染管理認定看護師	東病棟12階多目的ホール	59人	3時間30分
情報システム関連パソコン操作研修	2022年度新規採用者	KAIJUの基本操作を学び、日常業務に活用できる	・KAIJUの基本操作	講義 演習	4/11(火)～4/13(木) 部署の都合の良い時間帯で2時	看護情報リンクナース	各部署	59名	2時間
新規採用看護師基礎研修(注射与薬・輸液ポンプ)	2022年度新規採用看護師	1) 注射与薬のプロセスを理解し、実践に活かす 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプの原理と使用方法を理解し、実践に活かす	注射与薬プロセスおよび輸液ポンプ・シリンジポンプ使用方法	講義 演習	4/16(土) 8:00～16:45	各部署の副看護師長、 実地指導者、看護部安全対策委員会	東病棟12階多目的ホール 各部署演習室	新規採用看護師57名、副看護師長24名、実地指導者41名	7時間45分
看護記録基礎研修(STEP1)	2022年度新規採用者の新卒看護師	看護記録の意義と重要性を理解し、観察した患者状態を記録できる	・看護記録の目的、意義の講義 ・写真を用いた事例の看護記録記載 ・研修生と指導者(看護情報リンクナース)で討議を行い、回答例を用いた振り返りの実施	e-ラーニング 演習	4/19(火) 部署の都合の良い時間帯で1時間	野田 道代看護師長、 看護情報委員	各部署	47名	1時間

基礎研修

2022年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
基礎研修	糖尿病看護基礎研修	2022年度採用看護師(任期付看護師除く)	糖尿病に対する知識・技術を身につけ、安全な看護が提供できる	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病とは ・インスリン療法の基礎知識 ・糖尿病治療薬について ・糖尿病看護とリスクマネージメント ・実技演習 	講義 演習	4/28(木) 全体講義 8:30～10:00 演習 10:10～11:20 11:30～12:40 13:00～14:10 いずれかの時間に参加	藤本美枝糖尿病看護認定看護師 日本糖尿病療養指導士13名	東病棟12階多目的ホール・患者多目的室・セミナー室2・セミナー室3	52人	2時間40分
	心電図モニター基礎研修	2022年度新規採用看護師	心電図モニター使用時の取り決めと安全管理について理解できる	<ol style="list-style-type: none"> 1) セントラルモニターとベッドサイドモニター、送信機について 2) 心電図モニターとナースコールの連動について 3) 心電図モニター装着時の取り決めについて 4) 心電図モニター装着中の管理について 	e-ラーニング 部署での演習	5月9日(月)～5月13日(金)	安全対策委員会	各部署	新規採用看護師・助産師54名	2時間
	IV基礎研修	2022年度新規採用看護師(任期付看護師除く)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な静脈注射を実施するための知識、基本的な技術・態度を習得する ・本院の静脈注射実施基準を理解し、倫理的側面を考慮した行動がわかる ・静脈注射に必要な薬理作用・解剖生理を理解し実践にいかすことができる ・静脈注射に必要な安全・感染管理の知識を習得し、実践に活用できる ・緊急時の報告・連絡ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・静脈注射実施基準と法的責任・教育計画 ・静脈注射に必要な解剖・生理 ・看護師に必要な薬理作用の基礎知識 ・静脈注射に必要な緊急時の看護 ・静脈注射に必要な感染管理 ・静脈注射に必要な安全管理 	e-ラーニング 講義 筆記試験	6/3(木) 9:00～15:40	脳神経内科 植田明彦先生 薬学部部長 齋藤秀之先生 業務委員会 感染管理認定看護師 藤本陽子看護師長 医療の室・安全管理部 GRM 森山嘉子看護師長 救急看護認定看護師 村上志穂副看護師長	東病棟12階多目的ホール	55人	5時間40分

2022年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
基礎研修	PNS研修	2022年度新規採用看護師	1)PNS場面におけるロールプレイを通して、PNSの意義、マインドを理解できる ・PNSの基本 ・パートナーシップ理論とは ・パートナーシップ・マインドの3つの心 ・パートナーシップに必要な3要素	動画視聴 講義 GW	7/29(金) 14:00～16:10	パートナーシップ・システム・マネジメント 代表 上山香代子 先生	東病棟12階多目的ホール	53人	2時間10分
	社会人としての基本姿勢とコミュニケーションⅡ	2022年度新規採用看護師	1)社会人として自覚と責任ある行動が取れる 2)社会人として「報告・連絡・相談」を実施できる 3)組織における役割、心構えを理解する 「看護職としての社会人基礎力とは」 「看護部理念をふまえた社会人としての基本姿勢について」	講義 GW	6/20(月) 13:00～14:00	看護教育支援室 牛島輝美看護師長	東病棟12階多目的ホール	51人	1時間
	メンタルヘルスフォローアップ・新人ピアカウンセリング研修	2022年度新規採用看護師	1)自分が抱えているストレスの存在を知る 2)考え方の傾向を知り、客観的に物事を認知していく力を身に付ける 3)ピアカウンセリングを行うことで、リアリティショックを緩和する ・現在のストレス度チェック ・ストレスの現れ方とその対処方法 ・3ヶ月間の振り返り ・気持ちの共有	講義 GW	6/20(月) 14:00～16:00	熊本大学病院 医療の質・安全管理部 臨床心理士 一美奈緒子先生	東病棟12階多目的ホール	51人	2時間
	看護記録基礎研修(ステップⅡ)「情報収集の仕方と整理」	2022年度新規採用看護師	看護過程の概念を学び、NANDA-Iの13領域にそった情報収集と整理ができる ・看護過程とは ・NANDA-Iの13領域にそった情報収集の仕方と整理 ・グループワーク(ペーパーペイシエント事例を用いた情報の整理)	講義 GW	7/15(金) 13:00～16:45	野田 道代看護師長 (看護情報委員会)	東病棟12階多目的ホール	43名	3時間45分

2022年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
フィジカルアセスメント基礎研修/ BLS研修	2022年度新規採用看護師	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント基礎研修 1)フィジカルイグザミネーション技術を修得し正常と異常のアセスメントができる 2)呼吸・循環・意識・腹部のフィジカルアセスメントに必要な知識を学ぶ ・BLS研修 1)一次救命処置の概要を理解し技術を修得する 2)AEDを正しく理解し、使用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント基礎研修 1)問診・視診・触診・聴診に必要な講義 2)フィジカルイグザミネーション技術の演習 3)シミュレーションを活用した正常と異常の判断 ・BLS研修 1)BLS・AEDに関する講義 2)シミュレーターを使用しBLS・AEDの演習 	講義 演習 GW	8/29(月) 8/30(火) 8/31(水) (※いずれか1日に参加) 8:00～16:45	集中ケア認定看護師 田中貴子副看護師長 救急看護認定看護師 村上志穂看護師長	中央診療棟7階 総合臨床研修センター カンファレンス室・演習室	8/29: 15人 8/30: 16人 8/31: 15人	7時間45分
共有しよう 私の経験～経験を活かし同期で乗り越えよう！！～	2022年度採用の看護部・薬剤部・医療技術部職員	自分の経験を共有し、要因分析に基づいて改善策を考え得られたことを実践に活かす	確認不足事例を通して要因分析・改善策を考える	講義、グループワーク	令和4年 9/13(火)、9/14(水) 17:00～17:45	医療の質・安全管理部 近本亮	東病棟12階多目的ホール	9/13:31人 (看護師23人、 医療技術部4人、 薬剤部4人) 9/14:30人 (看護師23人、 薬剤部4人)	45分
新人研修「看護の中の気づき～患者から学ぶ～」	2022年度新規採用看護師	事例の振り返りやグループディスカッションを通して、自己の課題を明確にし、看護実践に活かせる	看護とは	講義 GW	11/26(土) 8:00～11:30	聖マリアンナ学院大学 教授 日高艶子先生 グループワークファシリテーター:教育担当副看護師長、教育委員	東病棟12階多目的ホール・患者多目的室・セミナー室2・中央診療棟7階カンファレンス室・演習室(1～9)・ジュレーション室1	52人	3時間30分
看護OSCE	2022年度新規採用看護師	基本的臨床実践能力を客観的に評価し、自己の課題を明確にする	設定した模擬患者で課題を実施し、評価を受ける	OSCE(客観的臨床能力試験)	2023年1/23(月)～1/26(木) 9:30～16:00 1/27(金) 9:30～14:40	教育委員会が評価表に基づいて行う	中央診療棟7階 演習室1～3、 シミュレーション室1	48人	30分
補講BLS	2022年度8月に実施したBLS研修の未受講者	1)一次救命処置の概要を理解し、技術を獲得する 2)AEDを正しく理解し、使用できる	BLSについて	講義 演習	2022年2/16(木) 16:00～16:45	村上志穂救急認定看護師	中央診療棟7階 演習室1～3	4人	45分

基礎研修

2022年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
ラダー I	がん看護 (基礎編)	レベル I	がん看護の基礎的知識を理解し、実践に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護概論 ・がん薬物療法看護 ・がん放射線療法看護 ・がん性疼痛看護 ・緩和ケア ・意思決定支援 ・コミュニケーションスキルについて 	講義 ロールプレイ	7/22(金) 8:30～16:45	がん看護専門看護師 岡本泰子 がん看護専門看護師 石坂咲子 がん性疼痛看護認定看護師 前田望花 緩和ケア認定看護師 内田新	東病棟12階多目的ホール	24人	7時間15分
	看護過程研修	レベル I 以上	看護過程を理解し、事例を展開することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・NANDA13領域の各項目の意義、情報収集、アセスメントについて ・看護過程について 	講義 GW	10/14(金) 9:00～16:00	熊本大学大学院生命科学部准教授 松本智晴先生	東病棟12階多目的ホール	41人	6時間
	急変時の対応	レベル I	1)急変対応に必要な知識とスキルを修得する 2)急変対応時のコミュニケーション、チームワークの必要性について理解し行動できる 3)緊急性と優先度の判断が理解できる	1)急変対応に必要な知識 2)スキルトレーニング 3)コミュニケーションとチームワークについて	講義 演習	R5/1/14(土) 午前:8:00～12:00 午後:13:00～17:00	救急・総合診療 入江弘基教授 救急認定看護師 村上志穂 集中ケア認定看護師 田中貴子	中央診療棟7階臨床研修センター カンファレンス室・演習室・シミュレーション室	36人	4時間
ラダー II - 1	プリセプター研修:6ヶ月	2022年度プリセプター	1)新人の半年間の成長度合いを評価し、今後の指導内容や方法を検討する 2)プリセプターの体験を通して自己の関わり方や自己成長を再確認する	1)新人看護師の特性、6ヶ月までの適応過程 2)新人の成長度合いの評価と今後の指導のあり方 3)自己の振り返りと指導者としての成長過程の確認	講義 GW	9/7(水) 8:30～11:30	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階多目的ホール	36人	3時間30分
	看護管理	レベル II-1	1)看護管理を理解し、部署の運営に参画できる 2)チームメンバーとして主体的に行動できる	1)看護管理とは 2)コンプライアンスとは	事前に看護補助者体験 講義 GW	9/16(金) 13:30～16:30	井原国代副看護部長	東病棟12階多目的ホール	33人	3時間
	第29回事例研究発表会	レベル II-1	1)事例研究の意義を理解し、発表を通じて研究的視点を習得する 2)看護理論を活用しながら、実践において個別的な看護展開を発揮する	<ul style="list-style-type: none"> ・事例研究発表 ・事例討議 	発表 検討	10/29(土) 8:00～11:45	座長及びファシリテーター 看護師長	中央診療棟7階カンファレンス室、東病棟12階多目的ホール・セミナー室2	31人	3時間45分

2022年度 看護部 院内教育計画表

ラダーⅡ-1以上	がん看護(実践編)	レベルⅡ-1以上	がんやがんの治療に伴う症状へのケアについて理解し実践に活かすことができる	事前e-ラーニング 1)がん看護における症状マネジメント 2)がんに伴う苦痛症状への看護ケア 3)治療に伴う有害事象への看護ケア 研修当日 症状マネジメント 事例を使用した症状マネジメントの実際 事例検討(GW)	講義 GW	9/29(木) 8:30~16:30	がん看護専門看護師 安達美樹 がん性疼痛看護認定看護師 坂口まみ がん化学療法看護認定看護師 森奈緒美	東病棟12階 多目的ホール	17人	7時間
	プリセプターシップ研修	者(プリセプター)(レベルⅡ-1以上) 新副看護師長 副看護師長の希望者	プリセプターシップについて理解し、実践する	1)プリセプターシップの概念 2)実地指導者に求められる能力と役割 3)効果的な指導方法	講義 GW	R5/3/1(水) 9:00~11:00	看護教育支援室 牛島輝美看護師長	東病棟12階 多目的ホール	40人	2時間
	中堅看護師としてのクリニカルリーダーシップとマネジメント研修	レベルⅡ-1もしくはⅡ-2かつ本年度の看護師経験年数4年目~7年目まで	1)中堅看護師として、リーダーシップを発揮するために必要な概念化能力を習得する 2)リーダーとしての対人能力(コミュニケーションスキル)を学び、実践に活かすことができる	1)業務マネジメント 2)対人関係マネジメント 3)問題発見型アプローチ	講義 GW	10/26(水) 8:30~12:30	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目的ホール	20人	4時間
ラダーⅡ-2	臨床推論研修	レベルⅡ-2を取得後5年以内	ケアを決定するプロセスと根拠について理解し、看護が提供できる	臨床推論とは	講義 GW	12/16(金) 13:00~16:00	急性・重症患者看護専門看護師 吉里孝子看護師長	東病棟12階多目的ホール	15人	3時間

2022年度 看護部 院内教育計画表

ラダーⅡ・Ⅲ	看護研究のすすめ研修	レベルⅡ-2以上	看護研究の基礎を学び、研究課題を明確にして、研究に取り組むことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理 ・看護研究概論 ・文献検索、文献レビュー ・量的・質的研究の基本的な研究方法 ・文献検索の実際 	講義 演習	5/27(金) 8:30～16:45	がん専門看護師 岡本泰子 安達美樹 石坂暁子 精神看護専門看護師 江田由美子 急性・重症患者看護専門看護師 吉里孝子	管理棟3階第一会議室、医療情報パソコン室、東病棟12階多目的ホール	9人	7時間15分
	フィジカルアセスメントステップアップ研修	レベルⅡ-2以上	フィジカルアセスメント能力に必要な知識と技術を習得し、実践に活かす フィジカルアセスメントに必要なイグザミネーション技術を向上させ、フィジカルアセスメントを確実に行うと共に指導技術を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して得られたデータから正常と異常、緊急性、優先度を判断する ・敗血症を学ぶ ・フィジカルイグザミネーションと事例の統合 	講義 演習 GW	6/30(木) 午前8:30～12:00 午後13:15～16:45	集中ケア認定看護師 田中貴子 救急看護認定看護師 村上志穂	東病棟12階多目的ホール・患者多目的室	25人	3時間30分
	療養支援研修	レベルⅡ-2以上	患者の意向を尊重し、患者・家族から信頼される療養支援ができる 外来・入退院時に求められる療養支援を理解し、看護実践に活かすことができる	<ol style="list-style-type: none"> 1)急性期病院における退院支援から在宅療養支援の現状について 2)病棟看護師が主体的に退院調整に取り組むためには 	講義 GW	6/24(金) 9:00～16:45	在宅ケア移行支援研究所 所長 宇都宮宏子先生	東病棟12階多目的ホール	22人	6時間45分
	療養支援フォローアップ研修	レベルⅡ-2以上 (7/7の療養支援研修を受講した研修生)	患者の意向を尊重し、患者・家族から信頼される療養支援ができる 外来・入退院時に求められる療養支援を理解し、看護実践に活かすことができる	<ol style="list-style-type: none"> 1)急性期病院における退院支援から在宅療養支援の現状について 2)病棟看護師が主体的に退院調整に取り組むためには 	講義 GW	11/25(金) 9:00～16:45	在宅ケア移行支援研究所 所長 宇都宮宏子先生	東病棟12階多目的ホール	24人	6時間45分
	臨地実習指導者研修	2022年度臨地実習指導者	<ol style="list-style-type: none"> 1)臨地実習指導者の役割を理解し、効果的な実習指導を実践する 2)実習指導教員と協働し、実習指導を展開することができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1)看護教育における臨地実習について 2)実習指導教員との情報交換会 	講義 GW	7/1(金) 14:00～16:00	熊本大学大学院生命科学部保健学科 教授 前田ひとみ先生	東病棟12階多目的ホール	21人	2時間

2022年度 看護部 院内教育計画表

ラ ダ ー Ⅱ ・ Ⅲ	災害看護研修	レベルⅡ-2以上	<ul style="list-style-type: none"> ・災害看護の基礎と特殊性について理解する ・災害発生時の対応(役割)について理解する ・災害発生時の感染対策について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害医療概論 ・災害看護に必要な基礎的事項 ・災害発生時の対応 ・広域災害での医療支援活動 ・トリアージについて ・災害時における感染対策について 	講義 施設	9/8(木) 8:30~12:00	災害医療教育研究センター長 笠岡俊志教授 救急看護認定看護師 村上志穂 感染制御部 感染管理認定看護師 藤本陽子	東病棟12階多目的ホール	26人	3時間30分
	リーダー育成研修Ⅰ	レベルⅡ-2以上	リーダーに求められるマネジメントを習得することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・組織で働くということ ・リーダーに求められる役割と仕事の管理方法 ・後輩への指導方法 ・ナレッジマネジメント 徹底現場主義 ・パートナーシップ・ナーシング・システムについて 	講義 GW	7/29(金) 8:30~12:30	パートナーシップ・システム・マネジメント 代表 上山香代子先生	東病棟12階多目的ホール	21人	4時間
	リーダー育成研修Ⅱ	リーダー育成研修を受講した研修生27人	<ol style="list-style-type: none"> 1)各部署でのPNSにおける取り組みについて発表することができる 2)他部署での取り組みを参考にしながら自部署に活用することができる 	研修での学びを活かした実践報告	パワーポイントを用いたプレゼンテーション	11/18(金) 8:30~12:00	パートナーシップ・システム・マネジメント 代表 上山香代子先生	東病棟12階多目的ホール	19人	3時間30分
	家族看護	レベルⅡ-2以上	家族アセスメントに必要な基本的知識を身につけ、患者・家族への看護実践に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・家族看護の基本的な考え方 ・家族理解に必要な視点と基盤となる理論 ・家族看護介入 ・事例を用いた家族看護の展開 ・急性期病院での家族との関わり 	講義 GW	12/15(月) 9:00~16:00	高知県立大学基礎看護学教授 瓜生浩子先生	東病棟12階多目的ホール	20人	6時間
	事例検討 (ロイ看護論)	ラダーレベルⅢ相当の看護師	<p>看護過程に看護理論を活用できる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)ロイの看護理論をもとに看護を展開し事例にまとめることができる 2)看護実践における論理的思考ができる 3)ロイの看護理論を自部署に浸透できる 	ロイの看護理論を用いた事例検討	講義 GW	1回目 9/26(月) 13:30~16:45 2回目 11/11(金) 3回目 12/12(月) 14:00~16:45	聖マリア学院大学教授 日高艶子先生	東病棟12階セミナー室2	10人	8時間45分

2022年度 看護部 院内教育計画表

ラダーⅡ・Ⅲ	事例検討 (オレム看護論)	レベルⅡ-2以上	看護過程に看護理論を活用できる 1)オレムの看護理論をもとに看護を展開し事例にまとめる 2)看護実践における論理的思考を育てる 3)オレムの看護理論を自部署に浸透できる	・オレム看護理論について ・オレムの看護理論を用いた事例検討	講義 GW	1回目 9/14(水) 13:00～16:30 2回目 10/26(水) 13:30～16:30 3回目 11/30(水) 13:30～16:30 4回目 12/21(水) 9:00～12:00	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	1回目: 東病棟12階セミナー室2 2～4回目: 東病棟12階多目的ホール	15人	13時間
	認知症看護研修	レベルⅡ-2以上	・認知症に関する基本的知識を習得する ・入院中に必要な認知症看護に関する専門的技術を習得し、患者の尊厳を尊重したケアが提供される	・認知症の基礎知識 ・認知症患者に対するアセスメントとケア ・認知症患者に対するコミュニケーションと療養環境の調整	講義 GW	R5/2/13(月) 13:00～16:30	熊本大学病院認知症専門医 遊亀誠二先生 認知症看護認定看護師 市川麻紀	東病棟12階多目的ホール	17人	3時間30分
管理者研修	新副看護師長昇進者研修	2022年4月1日付副看護師長昇進者	1)社会情勢や当院の経営状況、看護管理に関して現状を把握したうえで、看護管理に役立てることができる 2)看護管理者として、副看護師長の役割を理解し組織運営ができる	・当院の経営状況・労務管理 ・看護管理 ・人材育成	講義 質疑応答	5/11(水) 9:00～10:50	山本治美 看護部長 上田直美 看護師長 柿本裕貴 副看護師長	東病棟12階セミナー室2	7人	1時間50分
	管理研修 看護師長研修(2回シリーズ)	看護師長	1)ロイ適応看護理論を看護管理(人材育成)に活用する 2)看護管理事例検討を通して管理実践に論理的思考を活用する	・ロイ適応看護理論の概念を事例展開の手法 ・ロイB適応看護理論の管理事例への応用	講義 GW	1回目:7/21(木) 13:00～16:00 2回目:12/23(金) 13:30～16:30	聖マリア学院大学教授 日高艶子先生	東病棟12階多目的ホール	1回目 33人 2回目 27人	6時間
	副看護師長管理研修(2回コース)	副看護師長	1)現場のロールモデルである副看護師長の問題解決のための論理的思考を獲得する 2)論理的思考のための理論、技法を獲得する	・問題解決のための論理的思考について ・論理的思考のための理論、技法について ・組織分析(SWOT分析・クロスSWOT分析)	講義 GW	1回目:7/27(水) 13:30～16:30 1回目中止 2回目:11/11(金) 9:00～12:00	山本治美看護部長	東病棟12階多目的ホール セミナー室2	72人	3時間

2022年度 看護部 院内教育計画表

指導者研修	基本的日常生活援助技術指導者研修	2023年度実地指導者(プリセプター)で研修未受講者および新副看護師長	基本的日常生活援助技術を根拠に基づいて指導する方法が習得できる	日常生活援助技術の評価シナリオに基づいて演習(臥床患者の排泄・清潔・更衣・体位変換技術)	演習 体験学習	R5/3/6(月) 13:00~14:50 14:55~16:45 R5/3/7(火) 8:00~9:50 9:55~11:45 13:00~14:50 14:55~16:45	副看護師長 教育委員	中央診療棟7階 総合臨床研修センター	実地指導者、 新副看護師長 44人 副看護師長22人	1時間50分
	安全な注射・与薬の指導者研修	2023年度実地指導者(プリセプター)で研修未受講者および新副看護師長	指導者が安全な注射と薬方法および輸液関連ポンプ使用の指導方法を理解し、根拠に基づいた指導ができる。	注射と薬プロセスと輸液ポンプ・シリンジポンプ使用方法マニュアルに基づいた指導と評価の演習と薬の誤認防止について	演習	R5/3/6(月) 13:00~14:50 14:55~16:45 R5/3/7(火) 8:00~9:50 9:55~11:45 13:00~14:50 14:55~16:45	副看護師長 (安全リンクナースの経験を有する者) 安全対策委員会	部署	実地指導者41人 副看護師長3人 副看護師長23人	1時間50分
全職員対象	看護倫理部署別事例検討会	毎回指定された研修参加部署の看護職員	事例を通して看護倫理について学び、倫理観を養い実践に活かすことができる	事例検討	GW	9/12(月) 10/17(月) 11/14(月) 12/12(月) 1/30(月) 17:15~18:15	院内専門看護師	東病棟12階多目的ホール	9/12:32人、 10/17:41人、 11/14:28人、 12/12:26人 1/30:39人	5時間
	医療用麻薬研修	全看護職員	医療用麻薬とは何かを正しく理解することができる	「医療用麻薬について」e-ラーニング視聴確認テスト	e-ラーニング 確認テスト	8/1(月)~ 31(水)	安全対策委員会	各部署	看護師816人	20分
	重症度、医療・看護必要度研修	全看護職員	重症度、医療・看護必要度とは何かを正しく理解し、適性な評価ができる	重症度、医療・看護必要度とは何か 2022年度改訂内容および評価方法について	動画視聴 確認テスト	7/1(金)~ 8/31(水)	業務委員会	各部署	全看護職員	1時間
	共有しよう 私の経験~経験を活かし同期で乗り越えよう!!~	熊本大学病院職員	<ul style="list-style-type: none"> 患者の急変時に医療チームの各専門職はどう対処するかお互いの職種役割について理解する 多職種と関わる時どのように配慮してコミュニケーションを図ればよいか理解出来る 研修を通して日常の仕事振り返る機会にする 	患者急変時の事例を通して専門職としての自分の役割を学ぶ ・多職種連携(IPW)における効果的なコミュニケーション方法を学ぶ	講義、グループワーク	8/10(水)、 8/16(火) 17:00~18:00	医療の質・安全管理部 近本亮	東病棟12階多目的ホール	8/10: 31人(医師3人、看護師9人、医療技術部8人、薬剤部4人、栄養管理部2人、事務部5人) 8/16: 30人(看護師10人、医療技術部8人、薬剤部4人、栄養管理部2人、事務部6人)	1時間

2022年度 看護部 院内教育計画表

看護補助者対象	看護補助者研修	看護補助者	1)看護補助者が医療制度の概要及び病院の組織を理解できる 2)看護補助者が医療チームおよび看護チームの一員として、看護補助者の役割を自覚し重要な役割を分担していることを認識できる 3)業務実施上必要な安全配慮を理解できる 4)看護師と協働することの重要性や方法について理解できる	急性期看護補助体制加算のための必須項目に加え、看護師と看護補助者の協働について行った。	講義	7/20(火) 7/26(月) 7/28(水) 7/29(木)	業務委員会	東病棟12階多目的ホール	官執看護補助者(24人) 派遣看護補助者(57人) 学生アルバイト(33人) 計104人	4時間
講演会・発表会・報告会	講演会 I 看護部長講話	看護部職員	看護部の理念、目標を共通理解し、看護部職員が目標に向かって行動できる	看護部の理念、方針、2022年度の目標、教育方針	講演	4/12(火) 17:30~18:30	山本治美 看護部長	東病棟12階多目的ホール セミナー室2 (ハイブリッド方式)	対面 99人 (うち新規採用者61人) Web199人	1時間
	業務改善報告会	看護部職員	他部署の発表を参考として自部署の業務改善や看護実践に活かす	部署の業務改善実践報告 1)消毒行動定着への取り組み(東病棟2階) 2)COVID19陽性妊婦の安心安全な経産分娩介助への取り組み(MFICU) 3)アンケート集計及び文書作成における業務効率化への取り組み(看護教育支援室) 4)抜針血管確保業務における診療放射線技師とのタスクシェア(中央放射線部) 5)患者移送支援室への移送依頼の電子化移行の取り組み(看護部管理室付患者移送支援室)	パワーポイントを用いたプレゼンテーション	11/9(水) 17:30~18:30	業務委員会	東病棟12階 多目的ホール	112人	1時間
	活動報告会	看護部職員	他部署及び各委員会での取り組みを参考に自部署に応用できる	各部署及び各委員会、ワーキンググループの活動報告	報告会	3/3(金) 17:30~19:00	教育委員会	東病棟12階多目的ホール Zoomによる配信	127人 (会場46人、オンライン81人)	1時間30分

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
IV研修	IVナース研修 (筆記試験)	看護部職員	静脈注射に必要な知識を備え、基本的実践能力を習得する	本院の静脈注射実施基準と法的責任、解剖・生理、薬理、リスクマネジメント(安全・感染・緊急時の看護)のDVDを自己学習。 筆記試験	筆記試験 35分		業務委員会	東病棟12階 多目的ホール	(1回目) 16人全員合格 (2回目) 18人全員合格 (3回目) 10人(キャリア支援人事交流の参加者が1名含)全員合格	35分
	IVインストラクター研修	副看護部長または看護部長が推薦する看護師で各部署から1~2名	看護師・助産師が本院の実施基準に沿って静脈注射を実施できるいよに指導出来る。注射と薬プロセスのマニュアル指導者用に沿って実践、指導出来る	筆記試験	(1回目) 7/7(木) 08:20~09:40 (2回目) 12/8(木) 08:20~09:40	業務委員会	東病棟12階 多目的ホール	(1回目) 23人(合格者8人) (2回目) 20人(合格者6人)	1時間20分	
					(1回目) 7/8(金)10:00~16:45 (2回目) 12/9(金) 10:00~16:45			(1回目) 13人(合格者10人) (2回目) 8人(合格者5人)		1時間
	IVインストラクター継続教育	IVナースインストラクター資格取得者各部署から1人以上	IVナースインストラクターとしての役割を遂行する能力が向上する	講義、グループワークと全体講義、演習(CVポート抜針シミュレーション)	講義 グループワーク 演習	2/17(金) 14:15~15:30 (CVポート講義とシミュレーション研修 14:15~16:45)	業務委員会	東病棟12階 多目的ホール	講義 23人 演習 13人	2時間30分

2022年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間	
自主研修	精神看護	全看護職員	事例提供ができ精神看護を深め、問題解決ができる	部署からの事例について検討	ディスカッション	9/7(水) 11/30(水) 17:30~18:15	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目的ホール	48人	45分
認定看護師主催自主研修	糖尿病看護	ラダーⅡ-1以上で糖尿病患者に関わっている方	・糖尿病患者のセルフケア行動に影響する心理・社会的要因について学ぶ ・糖尿病患者の行動変化を促進するための援助やコミュニケーションについて理解できる	・患者さんのセルフケアを困難にする背景及び血糖変動の考え方 ・患者さんのやる気を引き出すコミュニケーション方法	講義 GW	(1回目) 3/6(月) (2回目) 3/7(火) 17:30~18:45	藤本美枝糖尿病看護認定看護師	東病棟12階 セミナー室2	(1回目) 5人 (2回目) 4人	2時間30分
	不妊症看護	院内看護師	がん患者の妊孕性温存について知識を深め、看護に活かす	・がん患者の妊孕性温存について ・生殖医療がん連携センターの活用について	講義	2/21(火) 17:15~18:30	本田万里子不妊症看護認定看護師	東病棟12階 セミナー室2	14人	1時間15分
	看護管理カフェ	次世代看護管理者	看護管理について学ぶ	日々現場で発生している事象を看護管理の視点で考える	講義	(1回目) 10/28(金) (2回目) 11/28(月) (3回目) 12/23(金) (4回目) 1/27(金) (5回目) 2/24(金) (6回目) 3/24(金) 17:15~18:15	今村かおる 認定看護管理者 本田万里子 認定看護管理者	東病棟12階 セミナー室3	5名	1時間
	副看護師長塾～時間・労務管理編～	副看護師長	部署管理に必要な時間及び労務管理の基礎を学ぶ	労働基準法に基づく労務管理	講義	(1回目) 6/24(金) (2回目) 7/19(火) 17:15~18:15	今村かおる 認定看護管理者 本田万里子 認定看護管理者	東病棟12階 セミナー室3	13名	2時間
	副看護師長塾～問題解決編～	副看護師長	部署で日々発生している諸問題を明確にし、対策を講じ、実践することができる	PDP(問題プロセス)、自部署の問題を抽出し、解決策を考える	グループディスカッション	(1回目) 9/30(金) (2回目) 10/31(月) (3回目) 11/25(金) 17:15~18:15 (4回目) 2/6(月) 17:15~18:30	今村かおる 認定看護管理者 本田万里子 認定看護管理者	東病棟12階 セミナー室2	16名	4時間15分

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【中央検査部】

研修名	期間(令和4年4月～令和5年3月)	実施回数	参加人数	備考
新規採用者オリエンテーション	4月1日	1	5名	
新規採用者新入職者研修	4月3日	2	5名	
タスク/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会実技講習	4月24日	1	32名	
輸血実技講習会	7月9日	1	3名	
令和4年度新規採用職員等心肺蘇生法講習会(コメディカルコース)	7月19日	1	9名	
アボットISO15189内部監査員養成セミナー	7月28日、8月20日、12月3日	3	14名	
ISO集合教育	5月10日	1	59名	
時間外緊急検査に関する定期研修(血液)	8月22日～9月8日	1	28名	
日臨技九州支部卒後教育研修会 第33回血液検査研修会	1月21日	1	3名	
2022年度精度保証研修会	9月27日	1	6名	
法的脳死判定トレーニング	10月15日	1	5名	
第1回医療技術部研修会	10月27日	1	74名	
第2回医療技術部研修会	3月2日	1	65名	
東大臨床検査セミナー2023 遺伝子関連検査	2月12日	1	4名	
熊本県臨床検査精度管理調査報告会 Web	2月5日	1	16名	
SEKISUI 第15回コアプレスタコントロールサーベイ報告会	2月9日	1	1名	
心エコー・ハンズオンセミナー	2月11日	1	6名	
第4回シスメックスHemostasis Seminar LIVE	2月17日	1	2名	
第10回熊本県臨床血液部門研修会	2月28日	1	3名	
時間外緊急検査に関する定期研修(生化学・免疫)	9月2日～9月21日	2	31名	
時間外緊急検査に関する定期研修(輸血)	8月30日	1	25名	
時間外緊急検査に関する定期研修(微生物)	9月8日	1	35名	
外部精度管理調査報告会	令和3年2月8日	1	2名	
2022年度国立大学病院臨床検査技師会九州ブロック研修会	3月16日	1	40名	
危機管理訓練	11月18日	1	48名	

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【ME機器センター】

研 修 名	期 間	実施回数	参加人員	備 考
セントラルモニタ	令和4年4月7日(金)、5月17日(水)	2回	13名	医療技術職員
除細動器	令和5年3月7日(火)	1回	7名	看護師 医療技術職員
人工呼吸器について	令和5年2月27日(月)、3月2日(木)	2回	20名	看護師

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【中央放射線部】

研修名	期間	実施回数	参加人員	備考
救急医療に関する研修(実技)	令和5年3月13日(月)	1回	技師1名、看護師3名、消化器内科医師4名、内視鏡検査技師	透視室での患者急変時シミュレーション訓練
救急医療に関する研修(実技)	令和4年4月27日(水)	1回	技師9名、看護師8名、放射線科医師7名	MRI患者急変時対応シミュレーション訓練
救急医療に関する研修(実技)	令和4年12月22日(木)	1回	技師9名、看護師9名、放射線科医師10名	造影CT患者急変時シミュレーション訓練
救急医療に関する研修(実技)	令和5年1月31日(火)	1回	技師6名、看護師12名、放射線科医師3名	RI検査室(PET/CT)での患者急変時シミュレーション訓練
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和4年6月23日	1回	技師7名、看護師1名	RALS装置安全使用に関する研修会
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和4年9月22日	1回	技師7名	第124回日本医学物理学会学術大会の参加報告会
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和4年11月14日	1回	技師8名	JASTROの参加報告会
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和4年11月28日	1回	技師10名、放射線科医6名、看護師1名	ワークスペースの周辺装置および治療計画装置の安全使用に関する研修会
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和5年2月6日	1回	医師3名、技師9名、看護師1名	安全に高精度放射線治療を提供するための機器管理、人的整備、環境整備に関する内容
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和5年2月27日	1回	技師9名	第21回九州放射線治療システム研究会の参加報告
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和5年3月23日	1回	技師9名	RALS用Ir線源交換時安全取り扱い研修会(RALS治療(IGBT)に関する第三者評価について

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 馬場 秀夫
管理担当者氏名	各診療科長、中央診療施設等の長、医療情報経営企画部長、薬剤部長、看護部長、医療技術部長、栄養管理部長、医療の質・安全管理部長、各課長

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院総務課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	中央手術部	
		看護記録	看護部	
		検査所見記録	中央検査部	
		エックス線写真	中央放射線部	
		紹介状	各診療科	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	病院総務課	
		閲覧実績	病院総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME 機器センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME 機器センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME 機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	病院総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課
		職員研修の実施状況	病院総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	病院総務課、経理課、医事課、薬剤部
管理者が有する権限に関する状況	病院総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	病院事務部長 山下 恵太
閲覧担当者氏名	総務課長 中島 勇
閲覧の求めに応じる場所	・管理棟3階 第2会議室
閲覧の手続の概要 病院事務部(総務課総務担当)へ閲覧の要求を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <p>熊本大学病院は、適切な安全安心で質の高い医療サービスを患者及びその家族に提供するために、医療事故、医薬品管理及び医療機器管理等を踏まえた医療に係る安全管理を目指す。</p> <p>また、「人間はエラーを犯す」ということを前提に、従業者一人一人が医療安全管理に対する高い意識を持ち、関係する各部署及び各委員会等が連携を図り、本院における医療安全管理を推進する。</p> 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年15回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理に係る基本方針に関すること (2) 医療安全管理のための具体的措置に関すること (3) 医療安全に係る従業者の教育及び研修に関すること (4) 本院において重大な問題その他医療安全管理委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること (5) 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに従業者への周知に関すること (6) 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること (7) 医療事故発生時の患者や家族への説明及び公表に関すること (8) その他医療に係る安全管理に関し必要な事項 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <p>新規採用者、中途採用者のオリエンテーションとは別に、医療に係る安全管理のための職員研修を全職員を対象に年2回実施しており、医療の質・安全管理部からの重要な伝達事項（例：高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供について）や、インシデントに関連したテーマの講演会（例：患者誤認について、インシデント後のメンタルケア等）を実施している。</p> 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>インシデントが発生した場合、各部署からのインシデントレポートにより医療の質・安全管理部へ報告がある。なお、重大なインシデントについては部署リスクマネージャーから即時にゼネラルリスクマネージャーへ連絡があり、ICに同席するなど初期対応から医療の質・安全管理部が介入して対応している。</p> <p>インシデントレポートを基に要因分析と再発防止策の検討を医療の質・安全管理部と医療安全管理委員会で実施している。検討した再発防止策は、リスクマネージャー連絡会議において警鐘事例とともに各部署のリスクマネージャーに通達し、その後リスクマネージャーから全職員へ通達される。</p> <p>また、部署リスクマネージャーによる自部署チェック、他部署間の相互チェックや、医療の質・安全管理部運営委員会委員による院内巡視、医療安全管理者によるラウンドなど、定期的な巡回や監査も実施している。</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 感染対策委員会，その他の医療機関内の組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 抗微生物薬適正使用に関する基本方針 6. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 7. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8. その他の医療機関内における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染防止対策に関する事項の審議 2. 院内感染防止対策研修会の企画・審議 3. 感染予防に関する事業の企画・実施 4. MRSA等の薬剤耐性菌の分離状況についての報告 5. 抗MRSA薬適正使用報告 6. 感染制御チーム（ICT）からの報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (医療系)『病院職員として知っておくべきこと～新型コロナウイルス感染症～／広域抗菌薬の使用量を減らしませんか。～タゾピペ、カルバペネム系薬、キノロン系薬～』 (事務系)『病院勤務中のコロナ対策』 2. (医療系)『新型コロナウイルス感染症とインフルエンザのtwindemicに向けて／抗菌薬と耐性菌の歴史・現状に触れて、抗菌薬適正使用の意義を確認しましょう。』 (事務系)『コロナ第8波？第9波？インフル同時流行？これからの感染対策』 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師等の多職種からなるICTを組織し、病原感染対策マニュアルの制定、院内感染発生時の対応、院内ラウンド、抗菌薬適正使用の推進、病院感染防止の教育・啓発、職業感染防止対策などの活動を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年6回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【院内研修】</p> <p>(1) 令和4年4月1日・「2022年度度新規採用職員研修 「薬剤部の業務内容と院内における医薬品の取り扱いについて」・273名(資料配布、必須項目はWEB研修) (講師；副薬剤部長、対象；新採用職員)</p> <p>(2) 令和4年6月27日～7月27日・「令和4年度第1回新採用医師を対象とした医薬品安全使用等にかかる研修会」・139名(講師；薬剤部長・室長、対象；新採用医師)</p> <p>(3) 令和4年6月2日・「令和4年度新採用看護師IV基礎研修：看護師に必要な薬理作用の基礎知識」・59名(新採用看護師)</p> <p>(4) 令和4年7月25日～8月8日・「令和4年度前期院内医療安全のための講演会(医療系) 「未承認新規医薬品等を用いた医療の提供について」・1706名(講師；薬剤師、対象；全職員)</p> <p>(5) 令和4年10月25日～11月26日・「令和4年度第2回新採用医師を対象とした医薬品安全使用等にかかる研修会」・26名(講師；薬剤部長・室長、対象；新採用医師)</p> <p>(6) 令和4年12月12日～12月26日・「令和4年度後期院内感染対策研修会及び医療安全のための講演会(医療系) 「高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等を用いた医療の提供等について」 「抗菌薬と耐性菌の歴史・現状に触れて、抗菌薬適正使用の意義を確認しましょう」・2200名(講師；薬剤師、対象；全職員)</p> <p>【病棟別等の対象限定での研修】</p> <p>(1) 令和4年9月13日・「救急カート薬・術前中止注意薬剤について」・10名(対象：東病棟7階看護師)</p> <p>(2) 令和4年12月6日・「医療用麻薬等の取り扱いについて」・18名(対象：東病棟12階看護師)</p> <p>(3) 令和4年10月11日・「重症筋無力症治療薬ウイファート点滴静注」・7名(対象：中央処置室看護師、医師)</p> <p>(4) 令和4年11月1日・「周術期の休薬対象薬について」・6名(対象：東病棟6階看護師)</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品安全管理責任者に薬剤部長を任命(平成19年4月)し、院内に医薬品安全管理専門委員会を設置した。 『医薬品の安全使用のための業務手順書』(以下、業務手順書)は平成19年7月に作成した。 令和5年1月に、医薬品安全管理専門委員会を開催し、業務手順書を改訂した(第18版)。今回の改訂内容については以下の通りである。</p> <p>令和5年1月18日改正(第18版)</p> <p>4章1(3)「錠剤自動分包機へ医薬品を補充する際にはGS1データバーによる確認を行いながら補充し、バーコードによる照合が出来ない場合には」複数の薬剤師で確認しながら行うことを追記</p> <p>8章1(1)患者へ処方された医薬品の管理について、「毒薬ならびに向精神薬(第1種・2種)の内服薬は薬袋にそれぞれ『管理』、『向1・向2』と印字され、注射剤は処方箋控えおよび集計表にその旨印字される」ため適切に管理することを追記</p> <p>13章3「院内標準薬物治療指針(院内フォーミュラ)の策定」について項目を追加</p> <p>15章1 個人情報保護の観点から患者間違いの無いように詳細を「病棟薬剤業務マニュアル第6版」に記載したことを追記</p> <p>16章1 薬物血中濃度を測定する医薬品として医薬品情報ハンドブック2022掲載品の他に「感染制御部抗菌薬適正使用支援チームの業務として、必要に応じて抗菌薬の血中濃度を測定し、主治医にフィードバックを行う」ことを追記</p>	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (・ 無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :

ランバート・イートン筋無力症候群に対する3,4ジアミノピリジンの投与

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- 1) 医薬品安全管理責任者は、院内各部署における常備医薬品に関する管理状況、内用剤・外用剤・注射剤の調剤時における疑義照会内容、外来化学療法室における疑義照会事例および病棟薬剤業務に関連した疑義照会事例等について、情報の収集・確認に努め、医療安全管理委員会において、その状況等を報告している。院内で発生した薬剤業務関連のインシデント事例について薬剤師への情報共有・周知を図り、再発防止のための注意喚起に努めている。
- 2) 院内各端末からは、病院情報管理システムを用いて、最新(毎月1回更新)の添付文書情報を閲覧可能としており、また、新規採用医薬品については、毎月発行の院内情報誌「熊大病院・医薬品情報」にて概要と注意事項等の情報を発信すると共に、病院情報システム内の院内専用電子掲示板“医薬品情報”にも掲示している。
- 3) 調剤(注射剤調剤を含む)に際しては、質疑応答内容を記録し、処方鑑査、疑義照会および医薬品安全使用の目的に活用している。がん化学療法においては、処方ミスを回避し安全性を確保するため、注射用抗がん剤に対する処方では専用のレジメンオーダーリングシステムのみでの運用に限定している。注射用抗がん剤の無菌調製は休日も含め全て薬剤部で担当している。
- 4) 治療域の狭い薬物や個体差の大きい薬物等については、薬物血中濃度モニタリング(TDM)による投与设计・管理を推奨し、特に抗MRSA薬については、毎月度開催される感染対策委員会においてTDM実施状況を報告し、TDMに基づいた適正投与を行うように医師に対し周知徹底を図っている。
- 5) 未承認医薬品については、院内では「本院で使用したことのない医薬品であって、“医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律”における承認又は認証を受けていないもの」と定義した上で、薬剤部で調剤(分包依頼、剤形変更などの特殊製剤依頼等も含む)する際には、未承認医薬品の使用が倫理委員会(人を対象とする医学系研究臨床研究部門倫理委員会、臨床倫理委員会)の承認を得ていることを書面にて確認している。医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師(担当薬剤師)は未承認医薬品の使用状況及び規程遵守状況等を月1回定期的に確認し、医薬品安全管理責任者へ報告している。報告された適応外使用をとりまとめ、月に一度、薬剤部長、副薬剤部長、医薬品情報室長、薬剤師 GRM、医療安全支援室長等をメンバーとする「医薬品の適応外使用評価部会」を薬剤部内で開催している。リスク分類は、日本病院薬剤師会作成の「ハイリスク薬に関する業務ガイドライン Ver.2.2」を参考に適応外使用によるリスクとベネフィットを評価検討し、診療科に対して適応外使用の理由書提出または倫理委員会への申請依頼を行っている。
- 6) 令和4(2022)年度の新規取組み事項
 - (1) 2022年4月15日に、「エンハーツ®点滴静注用 100mg (トラスツズマブ デルクステカン) による間質性肺炎発現時の運用手順」を作成し、ILDに関する患者指導、発現時の対応、副作用報告方法等について部内での対応統一を図った。
 - (2) 2022年4月に、「ビスホスホネート製剤(経口薬)」に関して有効性、経済性並びに安全性の観点から評価した院内標準的薬物治療指針(院内フォーミュラ)を策定し、紙媒体およびガールーン掲載による推奨薬リストの周知、処方オーダー時のポップアップ改修等などの対応を行った。
 - (3) 2022年5月12日に、院内医薬品情報誌にて「外用貼付剤の切断可否について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
 - (4) 2022年5月より病棟業務における退院時処方薬の薬剤師受領を、手書き運用から薬剤発送登録システムによる受領登録へと変更した。
 - (4) 2022年6月9日に、院内医薬品情報誌にて「G-CSF 製剤の適正使用について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
 - (5) 2022年7月より外来化学療法室で使用する前投薬(外来院内処方)のメッセージャーによる搬送を開始
 - (6) 2022年7月に、「PPI+P-CAB(経口薬)」に関して有効性、経済性並びに安全性の観点から評価した院内標準的薬物治療指針(院内フォーミュラ)を策定し、紙媒体およびガールーン掲載による推奨薬リストの周知、処方オーダー時のポップアップ改修等などの対応を行った。
 - (7) 2022年7月15日付で、「1回量処方入力間違いに対する投与量チェックシステム(上限値設定)の

強化」を行い、1回量処方入力間違い上位品目について上限値を変更（すべて添付文書常用量上限に変更）し、オーダ時の安全性強化を図った。

(8) 2022年8月10日に、院内医薬品情報誌にて「院内採用後発医薬品に関する情報」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。

(9) 2022年8月に、「当院採用向精神薬一覧」の改訂を行い、紙媒体およびガールーン掲載により周知を行った。

(10) 外来患者様からのご意見箱への投書を受け、2022年8月より外来院内処方、退院時処方の薬袋ホッチキス止めを廃止した。

(11) 2022年9月15日付で、「メトトレキサート製剤処方時の設定・運用について」を发出し、処方オーダ時の連続投与可能日数、休薬期間に関するチェックシステムのチェックレベルを「注意喚起」→「禁忌」へ変更することで安全性強化を図った。

(12) 2022年10月13日に、院内医薬品情報誌にて「添付文書にフィルタ使用要否に関する記載のある医薬品について（改訂第2版）」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。

(13) 2022年11月10日に、院内医薬品情報誌にて「副作用被害救済制度について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。

(14) 2022年11月に、「熊本大学病院薬剤部副作用報告基準 改訂第2版」を作成し、薬剤部内における副作用報告基準、報告時のフロチャート、情報共有方法等の明確化を図った。

(15) 2022年12月8日に、院内医薬品情報誌にて「医薬品適正使用のお願い（不妊治療に用いられる医薬品による卵巣過剰刺激症候群について）」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。

(16) 2023年1月に、「成人におけるARB(高血圧症)」に関して有効性、経済性並びに安全性の観点から評価した院内標準的薬物治療指針(院内フォーミュラリ)を策定し、紙媒体およびガールーン掲載による推奨薬リストの周知、処方オーダ時のポップアップ改修等などの対応を行った。

(17) 2023年1月30日より、医薬品情報室担当者と病棟薬剤業務担当者の情報共有カンファレンス（毎週火～金曜8:30開始）にて、製薬企業や関係団体からの通知文書一覧（各週まとめ）を作成・配布し、部内における医薬品情報共有の強化を図った。

(18) 2023年2月より筋弛緩薬である『ロクロニウム臭化物静注液』および『スキサニウム注』を払い出しするときに、紛失や不適切な使用が発生しないように注意喚起の文書を添付して支給することにした。

(19) 2023年2月7日より、製薬企業に対し、新規製造承認医薬品に関する医薬品情報ヒアリングを開始し、新型肺炎等の感染拡大状況下における医薬品情報提供活動について強化を図った。

(16) 2023年2月9日に、院内医薬品情報誌にて「医薬品適正使用のお願い（ヒドロキシエチルデンプン含有製剤(HES製剤)の適正使用について）」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。

(20) 与薬時における薬剤視認性の向上、中止時の破損回避のため、2023年3月よりOD錠およびマグミットの錠剤払出し単位における粉碎調剤を原則、簡易懸濁指示とする運用に変更した。

(21) 周術期患者に対する最適な薬物療法の実施による有効性・安全性向上のため、2023年2月より周術期薬剤管理加算の算定を開始した。

(22) 2023年3月9日に、院内医薬品情報誌にて「院内採用後発医薬品に関する情報」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。

(23) 外来院内処方薬渡し漏れ防止対策として、外来院内処方の引換券（会計なし患者）持運びにクリアファイルの使用を開始した。

(24) 各種業務マニュアルの改訂を行った。医薬品情報室の業務規定（第8版 2022/10/1）、病棟薬剤業務マニュアル改訂（第6版へ）、治験薬管理室業務マニュアル（第2版 2023/3/31改訂）、治験薬管理室業務習得用チェックリスト（Ver.2 2023/3/31改訂）また、特定臨床研究、JCOG等の臨床試験の研究薬・試験薬の薬剤部管理についての業務手順書を作成した。（2022年度の新規管理： 消化器外科 JCOG15 02C試験、 呼吸器内科 PAGE II 試験）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無																																																																								
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年18回																																																																								
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="0"> <tr> <td>令和4年</td> <td>4月</td> <td>閉鎖式保育器の基礎と使用方法</td> <td>62名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5月</td> <td>除細動器の原理と日常点検</td> <td>108名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月</td> <td>補助循環装置（IABP, PCPS）</td> <td>105名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月</td> <td>RALS安全講習会</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7月</td> <td>人工呼吸器</td> <td>104名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8月</td> <td>人工心肺の基礎</td> <td>76名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9月</td> <td>血液浄化装置</td> <td>81名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9月</td> <td>放射線治療機器リニアックの安全な使用方法</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10月</td> <td>閉鎖式保育器の基礎と使用方法</td> <td>54名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11月</td> <td>除細動器</td> <td>76名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11月</td> <td>RALS安全講習会</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11月</td> <td>放射線治療機器リニアックの安全な使用方法</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12月</td> <td>補助循環装置とその管理</td> <td>75名</td> </tr> <tr> <td>令和5年</td> <td>1月</td> <td>人工呼吸器</td> <td>112名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2月</td> <td>人工心肺装置</td> <td>69名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2月</td> <td>放射線治療機器リニアックの安全な使用方法</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3月</td> <td>血液浄化装置</td> <td>44名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3月</td> <td>RALS安全講習会</td> <td>4名</td> </tr> </table> <p>医療機器導入時研修 12回 合計参加者数：95名</p>		令和4年	4月	閉鎖式保育器の基礎と使用方法	62名		5月	除細動器の原理と日常点検	108名		6月	補助循環装置（IABP, PCPS）	105名		6月	RALS安全講習会	7名		7月	人工呼吸器	104名		8月	人工心肺の基礎	76名		9月	血液浄化装置	81名		9月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	7名		10月	閉鎖式保育器の基礎と使用方法	54名		11月	除細動器	76名		11月	RALS安全講習会	6名		11月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	4名		12月	補助循環装置とその管理	75名	令和5年	1月	人工呼吸器	112名		2月	人工心肺装置	69名		2月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	5名		3月	血液浄化装置	44名		3月	RALS安全講習会	4名
令和4年	4月	閉鎖式保育器の基礎と使用方法	62名																																																																						
	5月	除細動器の原理と日常点検	108名																																																																						
	6月	補助循環装置（IABP, PCPS）	105名																																																																						
	6月	RALS安全講習会	7名																																																																						
	7月	人工呼吸器	104名																																																																						
	8月	人工心肺の基礎	76名																																																																						
	9月	血液浄化装置	81名																																																																						
	9月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	7名																																																																						
	10月	閉鎖式保育器の基礎と使用方法	54名																																																																						
	11月	除細動器	76名																																																																						
	11月	RALS安全講習会	6名																																																																						
	11月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	4名																																																																						
	12月	補助循環装置とその管理	75名																																																																						
令和5年	1月	人工呼吸器	112名																																																																						
	2月	人工心肺装置	69名																																																																						
	2月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	5名																																																																						
	3月	血液浄化装置	44名																																																																						
	3月	RALS安全講習会	4名																																																																						
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況																																																																									
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>医療機器保守・点検業務手順書に則り、人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、直線加速器、RALS、輸液ポンプ、シリンジポンプ、小型シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、低圧持続吸引器、空気除菌・脱臭装置、AED、麻酔器は保守点検に関する計画を策定し、医療機器安全管理専門委員会にて承認された後、ME機器センター臨床工学技士ならびに製造販売業者が保守点検を実施している。保守点検後は、その状況を月報として医療機器安全管理責任者に報告し、最終的には病院長が委員長となっている医療安全管理委員会に提出されている。上記の医療機器は、始業点検・終業点検、使用中点検についても医療機器保守・点検業務手順書に則り実施している。なお、医療機器不具合時の対応法について院内ネットワークで閲覧できる状態であり、不具合機器は医療機器修理依頼書とともにME機器センターに持参してもらっている。</p>																																																																									
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																																																																									
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療安全情報で医療機器の不具合等に関する事例が報告された際、医療の質・安全管理部と連携を図り対象となる医療機器を扱う部署やスタッフへの周知を行う。また、医療機器の安全使用のための研修会の中でも医療事故に関する説明を行うこともある。WEBによる研修を行うことによって、より多くのスタッフが受講できるようになった。医療機器の添付文書はME機器センターで管理するとともに、院内ネットワーク上で何時でも閲覧できる。ME機器センター職員は、WEBによるセミナーや研修会を受講することにより、より充実した医療機器の保守管理・操作の業務に従事している。</p>																																																																									

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>管理者を議長として毎週開催される「医療安全対策に関するカンファレンス」及び毎月開催される「医療安全管理委員会」のメンバーとして医療安全管理責任者をはじめ、医療安全管理部門の医療安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者が出席しており、各所掌事項の報告や検討事項について情報を共有している。特に組織横断的に病院全体での検討が必要な事項等においては、医療安全管理責任者と相談した上で、医療安全管理委員会に諮り審議している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（12名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○医薬品の安全使用のために必要となる医薬品の使用状況の確認及び関連情報の整理 医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師（担当薬剤師）は、病院情報システムから得られたデータ、薬剤部疑義照会システムに記録されたデータ並びに薬剤部病棟業務カンファレンスで報告された事例等を基に、院内における医薬品の使用状況を月1回定期的に確認している。その結果を踏まえて、医薬品安全管理責任者は、重要な添付文書情報、緊急安全性情報、安全性速報、適応外使用・禁忌医薬品使用・未承認医薬品使用（「適応外使用」、「禁忌医薬品使用」及び「未承認医薬品等」の医薬品安全管理に係る情報）を確認・整理している。</p> <p>○医薬品の適正使用に係る情報の院内周知及び周知状況の確認 医薬品安全管理責任者は、担当薬剤師より報告された情報を医療安全管理委員会へ報告し、本委員会の判断の下に、必要に応じて医療安全管理部より院内全体に対し医薬品の適正使用のための注意喚起情報を周知している。“リスクマネージャー連絡会議の通達内容” および日本医療機能評価機構から発信される“医療事故情報収集等事業・医療安全情報”については、院内各部署に書面で配付し、署名にて周知状況を確認している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○適応外使用及び禁忌医薬品使用に関する情報収集と確認 担当薬剤師による適応外使用及び禁忌医薬品使用に関する情報を月1回定期的に収集した内容について、医薬品安全管理責任者が確認している。また、報告された適応外使用をとりまとめ、月に一度、薬剤部長（医薬品安全管理責任者）、副薬剤部長、医薬品情報室長、薬剤師 GRM、医療安全支援室長等をメンバーとする「医薬品の適応外使用評価部会」を薬剤部内で開催している。リスク分類は、日本病院薬剤師会作成の「ハイリスク薬に関する業務ガイドライン Ver.2.2」を参考に適応外使用によるリスクとベネフィットを評価検討し、診療科に対して適応外使用の理由書提出または倫理委員会への申請依頼を行っている。</p> <p>○未承認医薬品の使用状況の確認 担当薬剤師による未承認医薬品の使用状況等を月1回定期的に確認した内容について、医薬品安全管理責任者が確認している。</p> <p>・担当者の指名の有無 <input checked="" type="checkbox"/>・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p>	

(所属：薬剤部，職種 副薬剤部長) (所属：薬剤部，職種 医療安全支援室長)	
(所属：薬剤部，職種 調剤室長) (所属：薬剤部，職種 麻薬室長)	
(所属：薬剤部，職種 注射剤調剤室長) (所属：薬剤部，職種 製剤室長)	
(所属：薬剤部，職種 病棟薬剤業務支援室長) (所属：薬剤部，職種 医薬品情報室長)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 各科監査担当医師と診療情報管理士が毎月実施する診療録記載監査の中から、患者への説明記録及び同意取得に関する結果をまとめて、院内諸会議にて報告している。またリスクマネージャー会議においても同結果をもとに、部署リスクマネージャー等を通じて規定の遵守について指導を行っている。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施する診療録の監査実施と集計結果報告 実施者：監査担当医師 222 名、診療情報管理士 9 名 量的点検：全入院診療録（入院診療計画書、退院時サマリ、手術記録、診療記録等） 医学管理料等及び質的点検：入院診療録 約 300 例／月平均、外来診療録 300 例／月 ・監査の集計結果について院内諸会議及び診療科（監査担当医師）へ報告、院内グループウェア内フォルダに掲載し公表する。監査結果の不備について主治医宛に症例別報告書に通知し、必要に応じ直接医師へ連絡する。 ・放射線検査及び病理検査の全報告書の既読状況について、毎週各診療科へ報告、毎月医療の質安全管理部へ報告する。未読について医療の質安全管理部が確認と指導を行う。 ・入職時のオリエンテーションにて「診療録等記載マニュアル」（本院作成）をもとに、診療録の記載の原則及び運用上のルール等を説明する。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（5）名、専任（2）名、兼任（18）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（8）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 	

うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（4）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- (1) 医療の安全性の確保及び向上に係る方策の立案、推進及び検証に関すること
- (2) 医療安全管理に係る教育・研修の実施に関すること
- (3) 医療に係る安全の確保に資する診療状況の把握及び従業者の医療安全に対する意識向上の状況確認に関すること
- (4) 事故その他医療の質・安全管理部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他診療に関する記録の確認、当該事象に関わる患者又はその家族への説明、当該事象発生の原因究明その他の対応状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導に関すること
- (5) 高難度新規医療技術の提供の適否等に関すること
- (6) 未承認新規医薬品等の提供の適否等に関すること
- (7) 医療安全管理に係る連絡調整業務に関すること
- (8) 医療安全管理マニュアルに関すること
- (9) 熊本大学病院医療安全管理委員会に係る事務に関すること
- (10) 職員のメンタルヘルス支援に関すること
- (11) 医療事故及び医療紛争の当事者及びその家族の心理的支援に関すること
- (12) 医療の質・安全管理部長が必要と判断する患者及びその家族への心理的支援に関すること（前号に規定する業務を除く。）
- (13) その他医療の質及び医療安全管理に関し必要な事項

・医療安全に資する診療内容についてのモニタリングの具体例：

- ・手術室、内視鏡室、造影室、透視室のタイムアウト巡回、病棟の人工呼吸器巡回を GRM で実施した。結果はすべて部署にフィードバックした。
- ・画像診断所見と病理診断所見確認システムを導入しており、各診療科に結果をフィードバックした。また、令和元年度から、画像診断所見における、依頼内容以外の重要所見について診療の進捗を確認し主治医へフィードバックしている。重要なインシデントは発生していない。
- ・令和5年1月から、診療科により安全な手術を再認識してもらうことを目的とし、医療の質・安全管理部において、手術から24時間及び7日以内に行った再手術のモニタリングを開始し、毎月のモニタリング結果を該当の診療科へ通知している。
- ・令和5年6月から、中央検査部より算出された診療科毎のパニック値に基づき、医療の質・安全管理部がカルテ上で確認している。

・従事者の医療安全の認識についてのモニタリングの具体例：

「医療安全のための講演会」の受講状況について随時把握し、未受講者についてはeラーニングを

受講するよう指導している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（10件）、及び許可件数（10件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

(1) 診療科等の長から申請を受理した場合において、当該申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、高難度新規医療技術の提供の適否等について意見を求めること

(2) 前号の意見の求めに応じ、高難度新規医療技術評価委員会が述べた意見を踏まえ、高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対し、その結果を高難度新規医療技術提供審査結果通知書により通知すること

(3) 高難度新規医療技術の適正な手続に基づく提供に関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容の確認すること

(4) 高難度新規医療技術の適正な手続に基づく提供について、従業者の遵守状況の確認を行うこと

(5) 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号の従業者の遵守状況の確認をしたときに、その内容について病院長に報告すること

(6) 高難度新規医療技術評価委員会に係る事務を行うこと

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有

無 (有 ・ 無)

・活動の主な内容：

- (1) 診療科等の長から申請を受理した場合において、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対して、未承認新規医薬品等の使用の適否等について意見を求めること
- (2) 前号の意見の求めに応じ、未承認新規医薬品等評価委員会が述べた意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対し、その結果を未承認新規医薬品等使用審査結果通知書により通知すること
- (3) 未承認新規医薬品等の適正な手続に基づく使用に関し、定期的に、及び使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること
- (4) 未承認新規医薬品等の適正な手続きに基づく使用について、従業者の遵守状況の確認を行うこと
- (5) 未承認新規医薬品等の適否等について決定したとき及び前号の従業者の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること
- (6) 委員会に係る事務を行うこと

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 241 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 155 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 報告の実施状況（発生内容や頻度、その後の患者の転帰等）の確認と、確認結果の管理者への報告
2. 報告等の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための従業者への研修及び指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名： 旭川医科大学病院) ・ 無)

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名： 徳島大学病院) ・ 無)

・技術的助言の実施状況

技術的助言等はなかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者様やご家族からの医療の安全管理に係る相談等に対応する窓口として「患者相談室・医療安全相談室」を設置しており、直接の相談や電話による相談に対して適切に応じる体制を整えている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

新規採用者、中途採用者のオリエンテーションとは別に、医療に係る安全管理のための職員研修を全職員を対象に年2回実施しており、医療の質・安全管理部からの重要な伝達事項（例：高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供について）や、インシデントに関連したテーマの講演会（例：患者誤認について、インシデント後のメンタルケア等）を実施している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

※いずれも、公益財団法人日本医療機能評価機構主催

管 理 者：令和4年度第5回特定機能病院管理者研修[継続] (R5. 2. 2) オンライン受講済

医療安全管理責任者：令和4年度第1回特定機能病院管理者研修[継続] (R4. 11. 11) オンライン受講済

医薬品安全管理責任者：令和4年度第6回特定機能病院管理者研修[継続] (R5. 2. 20) オンライン受講済

医療機器安全管理責任者：令和4年度第1回特定機能病院管理者研修[初回] (R4. 11. 30) オンライン受講済

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構による病院機能評価一般病院3（3rdG：Ver.2.0）の更新審査を令和元年8月に受審し、令和2年3月6日付で認定。

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

熊本大学病院ホームページにて審査結果報告書を公表している。

掲載箇所： <https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/kuh/28.html>

・ 評価を踏まえ講じた措置

審査の結果、課題として取り組むことを推奨された事項について、院内会議体等で共有するとともに定期的に各事項の進捗管理を行い、課題解決を図っている。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準の主な内容 <p>医師免許を有し、医療法（昭和23年法律第205号）の規定に則った者であるとともに、人格が高潔で学識に優れ、次世代の医療に貢献すべく先端医療研究の推進、優れた医療人の育成および病院の管理運営に関し識見を有し、以下の点に合致する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 医療安全管理業務に対する知見・経験 病院の管理運営・経営に必要な能力 熊本大学病院に求められるミッションの遂行 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） 公表の方法 <p>国立大学法人熊本大学病院長候補者選考規則を熊本大学ホームページで公表。</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 <p style="margin-left: 40px;">病院の管理運営・経営等に関する重要事項及び病院長候補適任者の選考に関する事項</p> ・ 審議の概要の従業者への周知状況 <p style="margin-left: 40px;">院内コミュニケーションシステム（ガルーン）により、資料・議事録を掲載し周知</p> ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 公表の方法 <p style="margin-left: 40px;">熊本大学規則集システムやガルーンに掲載し公表</p> ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> 無 ） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
馬場 秀夫	○	医師	病院長、総合臨床研究部長
坂上 拓郎		医師	副病院長、呼吸器内科長、高度医療開発センター長
田中 靖人		医師	副病院長、消化器内科長
安永 純一朗		医師	血液内科長、膠原病内科長、中央検査部長、輸血・細胞治療部長、感染免疫診療部長
向山 政志		医師	副病院長、腎臓内科長、腎・血液浄化療法センター長、総合臨床研修センター長
松村 剛		医師	糖尿病・代謝・内分泌内科長、栄養管理部長
辻田 賢一		医師	循環器内科長
植田 光晴		医師	脳神経内科長
松井 邦彦		医師	総合診療科長
福井 寿啓		医師	心臓血管外科長

鈴木 実		医師	呼吸器外科長
宮本 裕士		医師	消化器外科長
山本 豊		医師	乳腺・内分泌外科長
日比 泰造		医師	小児外科長、移植外科長
神波 大己		医師	副病院長、泌尿器科長
近藤 英治		医師	産科長、婦人科長
中村 公俊		医師	副病院長、小児科長
宮本 健史		医師	整形外科長、リハビリテーション部長
福島 聡		医師	皮膚科長、中央材料部長
増口 信一		医師	形成外科長
井上 俊洋		医師	眼科長
折田 頼尚		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
中山 秀樹		歯科医師	歯科口腔外科長
平井 俊範		医師	副病院長、画像診断・治療科長、中央放射線部長
大屋 夏生		医師	放射線治療科長
竹林 実		医師	神経精神科長
武笠 晃丈		医師	脳神経外科長
平田 直之		医師	麻酔科長、集中治療部長、中央手術部長、ME機器センター長
三上 芳喜		医師	病理部長
入江 弘基		医師	救急部長
中村 太志		医師	医療情報経営企画部長
齋藤 秀之		薬剤師	薬剤部長
笠岡 俊志		医師	災害医療教育研究センター長
野坂 生郷		医師	がんセンター長
吉武 淳		医師	緩和ケアセンター長
山本 治美		看護師	副病院長、看護部長
横山 俊朗		臨床検査技師	医療技術部長
近本 亮		医師	副病院長、医療の質・安全管理部長
中田 浩智		医師	感染制御部長
山下 恵太		事務職員	副病院長、病院事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法

熊本大学規則集システムによる公表

- ・ 規程の主な内容

「熊本大学病院規則」、「熊本大学学則」

病院規則において、「特定機能病院の管理者として管理運営に関する権限に基づき、業務を総括し、所属職員を監督する。」と規定されている。また、病院長は、戦略、病院経営担当の副学長として任命されており、熊本大学学則の規定に基づき、学長を助け、命を受けて校務（病院経営等）をつかさどっており、開設者である学長から当該校務に係る権限を与えられている。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

- ・ 副病院長：病院長の職務の一部を補佐
- ・ 病院長特別補佐：病院長が命ずる病院における特別な事項を担当し、病院長を補佐

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

病院長、副病院長及び病院長特別補佐の病院中枢の執行部が、病院運営の課題や将来の展望・方向性等を意見交換し共通理解を図ることを趣旨とした「病院運営カンファレンス」において、構成員は各担当分野について問題意識をもって同会議に臨んでいる。

また、新たなセンター等の組織の設置や中期目標・中期計画の推進等、病院運営における重要事項を検討するWGやPTの座長に副病院長を指名し、副病院長のマネジメント力のスキルアップを図っている。

さらに、新型コロナウイルス感染症に係る対応において、情報把握を行うとともに関連部署と連帯を強化して総合的かつ有効な対策を迅速に講ずるため、本部長（病院長）、副本部長（診療活動担当副病院長）等から構成される「新型コロナウイルス対策本部」を設置し、本院における対応方針及び対策の意思決定や熊本県等関連機関との連携調整等を行っている。

本対応等を通して、対策本部構成員の危機管理マネジメント力のスキルアップが図られるとともに、対策本部の決定事項等発信体制の整備、強化により、病院一体となった危機管理意識の向上が図られている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>本院の医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長から報告を求め、又は必要に応じ確認を実施するとともに、必要に応じ医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を述べる。</p> <p>また、監査報告書を学長に提出するとともに、監査結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>熊本大学ホームページによる公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
西平 淳子	琉球大学病院 安全管理対策 室	○	医療安全管理に 関する見識を有 する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
森高 啓喜	森高・吉見法律 事務所		法律に関する見 識を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
馬見塚 まゆ み	がんサロンネ ットワーク		医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

熊本大学監事監査において、法令等に従い、業務の適正かつ効果的、効率的、経済的な運営を図ること及び会計経理の適正を確保するための監査を実施。

熊本大学内部監査において、業務の有効性及び効率性並びに業務処理の適法性について検証するとともに、リスク・マネジメント、内部統制及びガバナンス・プロセスの有効性について評価し、その結果に基づき是正又は改善のための助言、提言を行うための監査を実施。

・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)

・ 公表の方法

熊本大学ホームページによる公表

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p>外部有識者を含めた7名の委員で構成する熊本大学病院アドバイザー会議を設置しており、令和4年度の会議を令和5年1月12日に開催した。 同会議において、新型コロナウイルス感染症への対応状況、病院経営の課題と戦略、地域医療連携体制強化の取組、医師の働き方改革に係る取組、教育・研究機能強化の取組等について意見交換が行われた。</p> 会議体の実施状況（年1回） 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無）（年1回） 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無） 公表の方法 <p>熊本大学ホームページによる公表</p> 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：熊本大学病院アドバイザー会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
富澤 一仁	理事・副学長	○	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
笠原 慶久	株式会社肥後銀行 代表取締役頭取 熊本経済同友会代表幹事		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
田嶋 徹	熊本県副知事		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
村田 信一	熊本大学同窓会連合会会長 熊本大学武夫原会会長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
赤木 由美	九州旅客鉄道株式会社 上席執行役員総合企画本部 副本部長兼経営企画部長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
水田 博志	熊本市市民病院 熊本市病院事業 管理者		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
福田 稠	熊本県医師会会長 医療法人社団 愛育会 福田病院 理事長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 メール、院内コミュニケーションシステム (ガルーン掲示板) への掲示

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>本院ホームページ、熊大病院ニュース（年 2 回発行）、熊大病院概要（毎年度発行）等を活用し、本院の役割に関する情報を発信している。</p> <p>2023年2月には広く一般の方々にも各診療科の特徴や診療内容を知ってもらうことが安定的な病院経営の維持や地域に根ざした病院運営に繋がっていくものと考え、各診療科の診療内容等を手軽に知っていただく取り組みとして、本院ホームページ及びYouTubeに診療科の特徴や診療内容を案内するスライド動画の掲載を行った。また、地元メディア等からの取材依頼に積極的に応じ、熊本県で唯一の特定機能病院として、その果たすべき役割について地域に広く情報発信している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>当該科からのコンサルテーションシートに基づき、他科の診療科が必要に応じて診療・治療・検査等を連携して行う。</p>	